羅馬律要

甲

司法省文庫
第四 書
政治及法律部
三八三
二
三
門 號 函 架 冊

174

B150
0 3
1 a

■ 組語律要　小野梓著訳　総本3冊

明治9年に小野梓の訳されたもので、日本におけるローマ法の訳としては二番目に古い。自筆、序文を付した未入自筆稿本

小野梓 編訳
B150
03-1abc
AC

纂譯之大意

我輩ハ羅馬ノ律要ヲ讀者ノ眼前ニ供スルノ前ニ當テ之ヲ纂譯スル所以ノ大意ヲ陳言スルヲ順序ナリト認メタリ故ニ斯ノ纂譯之大意ヲ造リ為セテ本編ノ凡例ニ充シト欲ス

我輩伏シテ惟レハ我カ邦維新以來漸ク外交ノ緩密ナルニ及シテ我カ聲聖ナル明治文武皇帝ト我カ雄進ナル明治至治ノ衆民ハ稍

B150
03
1a

敵慮ト異ノ意思トヲ泰西ノ事情ニ傾ケ之ヲ大ニシテハ
政治ノ沿革教育ノ式様之ヲ小ニシテハ新発ノ運用工業
ノ興作等皆ナ之ヲ泰西ニ考ヘ以テ彼ノ長ヲ採リ此ノ短
ヲ補ハントト欲スル者ノ如シ是ニ於テ手法制ノ如キモ亦
タ或ハ之ヲ佛蘭西ニ採リ或ハ之ヲ英吉利斯ニ倣ヒ以テ
我カ邦ノ法制上ニ完全無缺ノ地歩ヲ始ムル者ノ如シ我
輩不編ノ篇譯者モ亦タ親シク斯ノ隆時ニ遇ヒ躬カラ斯
ノ盛事ヲ目擊スルヲ得ルヲ以テ為メニ喜躍感佩シテ曾
テ止ム能ハサルナリ然リ而シテ斯ノ喜躍感佩ノ情ニ因
テ発動セラレシ我カ應分報国ノ事業ヲ繹ヌルニ也ナン

皇帝ノ
敵慮ト衆民ノ意思トヲ賛成シ要本邦ヲシテ文化ノ最上
級ニ登ラシムヘキ而已矣
伏シテ以レハ泰西ノ律例大抵其ノ源ヲ羅瑪ノ法制ニ引
キ夫ノ欧人ノ貴重尊崇スル「ナポレオンコート」「コードフ
レテリタキ」ノ如キモ其ノ源流ヲ溯レハ即チ是レ羅瑪ノ
法制ニシテ英ノ某法米ノ某例皆ナ其根本ヲ羅瑪ノ律例
ニ得タル者ナリ故ニ欧羅巴亜米堅ニ在ツテ其ノ法制講究
スル者ハ必ス先ツ羅瑪ノ法制ヲ講スルヲ以テ其ノ通規
トセリ蓋シ其ノ泉源ノ遠近ヲ知ラサレハ未タ溯流ノ深

淺長短ヲ知ルヘカラサレハナリ我輩本編ノ纂譯者モ其
ノ在歐シテ文ノ律書ヲ講スルノ秋ニ當ツテ先ツ「ガイア
ス」及ヒ「チヨスチニヤン、インスチチユウシヨン」ヨリ入門
セシハ蓋シ斯ノ通規ヲ踏ンテナリ呪ヒ羅瑪國民ノ氣風穩和人相類ハサル者尺ラズ或ハ彼ノ律例ヲ講習シ其ノ神髓ヲ知ラサリシ故ニ我輩本編ノ纂譯者ハ我カ
皇帝ト我カ衆民トノ鋭意恭西ノ律例ヲ講明採擇スルヲ
見ル毎ニ未タ嘗テ羅瑪ノ律例ヲ譯出シ以テ其ノ
ヒ夜ノ聖覽ト具ノ日用ノ參考トニ供セントスルヒ
アラサルナリ然ルニガイアスハ羅瑪律ノ全豹ヲ載セス
「チヨスチニヤン、インスチチユウシヨン」ハ補ヽ治翰ニ渉リ
未タ羅瑪律例ノ全體ヲ具ヘテ簡旦ツ約ナル者アルヲ見
サルナリ故ニ本編ノ纂譯者ハ久シク其ノ微志ヲ果スコ
ト能ハス帰
朝以來既ニ再タヒ裘葛ヲ更フルニ至レリ
嗚呼幸ヒナル哉去歳明治八年ノ暮ニ際シ英國羅瑪律例
博士イ、グイル氏ハ我輩本編ノ纂譯者ニ贈ルニ羅瑪律例
ト題セル一書ヲ以テセリ我輩本編纂譯者ハ彼ヒテ之ヲ
閲スルニ其ノ書ハ和蘭「イデル」大學法學大博士ヂエイ、
イ、コードスミツ氏ノ原編ニシテ英國法學士アルヅ、ワル
シー、コールド氏ノ譯本ニ係リ一千八百七十三年之ヲ英

京倫敦ニ刊行シタル者ナリ

博士クイン氏壽書シテ曰ク本書簡約ナリト雖モ而モ能ク羅瑪律例ノ大体ヲ盡ス者ナリ子若シ一読セハ必ス発明スル所アラント且ツ法学士コトルト氏モ亦タ其ノ譯本ノ緒言中頗ル本書ノ簡ニシテ能ク羅瑪律例ノ大體ヲ尽スヲ称賛スル者アルヲ以テ本編ノ纂譯者ハ直ニ其ノ書ヲ繙キ半月ノ間之ヲ熟読玩味スルニ果シテ二氏ノ称賛スル所ニ違ハサルナリ

我輩本編ノ纂譯者ハ本書ヲ読味シテ以来脳宇頗ル羅瑪ノ律要ヲ具スルヲ覺ヘ嚮キノ「ガイアス」等ノ諸書ニ於テ尚ホ未タ明瞭ナラサル者モ或ハ之レカ為メ冰然一解スル者多シ蓋シ是レ博士クイン氏ノ子若シ一読セハ必ス発明スル者多カラント言ヒタル所以ノ者乎

是ニ於テ我輩本編ノ纂譯者ハ夙昔ノ微志ヲ果タスノ好時機ニ相遇セシヲ喜ヒ始メヒハ將サニ斯ノ機會ニ投シ大博士コートスニツ氏ノ書ヲ全譯シ以テ之ヲ世ニ問ハント欲シタレトモ既ニ之レカ譯稿ヲ起スニ當リテ再タヒ本書ヲ過読スレハ其ノ首部ハ歐羅巴人ノ嘗テ羅瑪律例ヲ講セシ沿革ノ畧史ニ係ルヲ以テ惟フニ邦人ヲ利スル者多カラサルナリ故ニ今マ截斷シテ之ヲ譯出セス唯

タ茅三十冊葉ヨリ以下ヲ譯編セント自史シタリ
然リ而シテノ我輩ハ單ニ本編ヲ譯ストカハスシテ特ニ纂
ノ一字ヲ加フル者ハ抑モ又タ說アルナリ請フ試ミニ之
ヲ言ハン抑モ大博士コードスミツ氏ノ書ハ頗ル能ク羅
瑪律例ノ大体ヲ盡シ甚タ善本ナリト雖ヒ畢竟三百有餘
ノ紙中ニ支ノ汗牛盈棟ナル羅瑪律書ヲ圈羅シタル者ナ
シハ彼此ノ際間ニ大箇ニ過クル者ナキヲ保シ難シ我輩
本編ノ纂譯者ハ其ノ之ヲ熟讀スルニ當ツテ現ニ之シカ
一二ヲ查出シ得タリ故ニ我輩ハ將サニ「カイアス」「チヨス
テニエン」「インステニユシヨン」等ヨリ譯出シ妄リニ之ヲ
裨補シ以テ其ノ完全ナランコトヲ冀フナリ是レ纂ノ文
字ヲ冠セサルヘカラサル所以ナリ蓋シ本編ハ大博士コ
ードスミツ氏ノ書ノミヲ以テ譯行セシ者ニ非ラサルヲ
示スナリ是レヨリ我輩本編ノ纂譯者ハ自カラ思維シ
テ本編ノ題号ヲ自製シテ羅瑪律要ト云フノ自由アリト
信憑セリ
本編纂譯ノ大意又シ如此讀者願ハ之ヲ玩味セハ其ノ違
ハサルニ庶幾ラン乎
凡ソ本編ノ中一字ヲ下ス者アルハ皆ナ是レ我輩纂譯者
ノ附註ニ係ル讀者幸ニ混スルコト勿シ

我輩本編ノ纂譯者ハ斯ク緒言ヲ終フルノ前ニ當ツテ羅
瑪律例ノ原編ニ就キ其ノ名目ト冊數トヲ左ニ開列シ讀者
ノ參考ニ供セントス

羅瑪律例原編ノ名目及ビ卷數

第一　インスチミユシヨネス　四冊
第二　デジエスタ　五十冊
第三　レビチユイト、フリレクシヨネス　十二冊
第四　ノベレイ、コンスチチユウシヨニス　百六十八類

大日本明治九年一月十日　纂譯者　謹識

羅瑪律例上快總目次　附引

我輩ハ上下兩快ニ分チ本編ヲ譯行スヘシト雖トモ原文
ノ勢ニ因リテ譯締ノ長短アルヘケレハ務メ之レカ卷
數ヲ定置スルコト能ハス是ヲ以テ斯ノ目次ニ付スル
ニ卷目ヲ以テセス唯タ章節ノ數目等ヲ記載スルコト
左ノ如シ但シ各卷ノ首メニ於テ更ラニ其ノ目次ヲ掲
示シ以テ索引ニ便ナラシムヘシ　纂譯者耳識

目次

第一章　權理ノ大意
第二章　權理ノ大意

第四項　律例ノ主義
第三項　慣習法ノ主義

第四章　権理ノ細義

第一項　権理ノ創始
第四項　権理ノ各種
第三項　権理ノ所基

第三章　権理ノ主即チ人類

第一節　人類ノ大意
第一項　人類ノ釋義
第四節　天然ノ人類

第一項　天然人類ノ元始并ニ之ヲ定擬スル通例
第四項　上件ノ終着

第三節　人類ノ本位ヲ得ラルヘキ品等
第一項　本位ニ奪権附リ戦奴
第四項　國民タルノ榮譽
第三項　法教ノ彼此
第四項　男女ノ兩性
第五項　衛生ノ情況
第六項　宗族并ニ戚屬
第七項　居所ノ區域

第四節　法作ノ人類

第一項　法作人類ノ釋義

第二項　社會ノ各種

第三項　社會ノ根性

第四項　社會ノ權理

第五項　社會ノ事務ニ代理事者

第六項　社會ノ基業ニ停業

第七項　施送

第八項　公共銀房

第四章　權理ノ實即千物類

第一節　物類ノ大意

第一項　物類ノ主義

第二節　物類ノ各種

第一項　不動物　動物

第二項　得交換物　不得交換物

第三項　消盡物　不消盡物

第四項　得分割物　不得分割物

第三節　各種物類ノ交涉

第一項　主物　屬物

第二項　收獲

第四節　質市物類

第一項　質市物

羅馬律要卷一目次

第一章　權理ノ大意

第一項　權理ノ大意

第二項　律例ノ主義　羅馬律例沿革史畧

第三項　慣習法ノ主義

羅馬律要上帙卷之一

第一章　權理之大意

第一項　權理之大意

權理ヲ廣ク說ケハ即チ是レ衆民一般ノ定意ナリ蓋シ同邦ノ衆民ヲ引導シ其ノ身行ノ標準ト爲ンカ爲メ一定ノ條規ヲ識認遵守セシムル者ナリ而シテ之ヲ表明スル者ハ律例ト慣習ノ二者ナリ

羅馬人ノ權理ヲ說ク往々律例ノ原本ト義ヲ同フス故ニ我輩之ヲ譯出スル方サニ本文ノ如シ復タ一字ヲ增減スヘカラサルナリ以下斯ノ類多シ讀者諒セヨ

第二項　律例ノ主義

所謂ル律例ナル者ハ政廳ノ命令ナリ蓋シ事ノ衆民ヲシテ遵行セシムヘキ者アルニ遇ハヽ之ヲ公布シ以テ行政ノ規矩ト為ス者ナリ

按スルニ羅瑪國具ノ政体ノ變革ニ應シ種々ノ法言ヲ作為スルコトアリ然リ而シテ之ヲ講明スルハ復タ讀律中ノ一要事ナリ故ニ我輩本編ノ纂譯者ハ之ヲ羅瑪ノ古史ニ徵シ律例ノ沿革ヲ畧叙スル左ノ如シ蓋シ我輩ノ姿心邦人ノ未タ之ヲ知ラサル者ニ告ントスルナリ

羅瑪律例沿革畧史

按スルニ隆古ノ史書ハ得テ考フヘカラスト雖ニ其ノ開国ノ首メヨリ二別ノ人民アリテ羅瑪衆民ヲ建テシコトハ我輩又タ疑ヲ容ルヘカラサルナリ

二別ノ人民一ヲ「ポピユロス」(良民)ト云ヒ一ヲ「プレブス」(賤民)ト云フ而シテ羅瑪建国ノ首部ニ當テ政治ノ勢權ヲ擅ラニセシ者ハ獨リ吏ノ「ポピユロス」ノ族類ノミニシテ「プレブス」ノ族民ハ少シモ之レニ干渉スルヲ得サリシナリ

今マ「ポピユロス」ノ起根ヲ尋ルニ史書得テ考フヘキ者ナシト雖ニ畢竟三箇ノ「ツライブ」(党類)ヨリ成リシ者

ノ如シ而シテ毎「ツライブ」ヲ十分シテ之ヲ「キユリー」(母
當ノ譯語ナシ今マ假リニ之ヲ大隊ト云フ下ノ「デエン
ス」ヲ小隊ト云フモ之レニ同シ)ト名ケ又タ更ラニ「キユ
リー」ヲ小分シテ「デエンス」(小隊)ト名ク「デエンス」ノ中許
多ノ家眷アリ各々其ノ姓氏ヲ同フシ既ニ同一ノ法教
式例ヲ用ヒ又タ平等ノ權理ヲ有ス然リ而シテ其ノ同
一ノ「デエンス」タルニ於テ敢テ血脈ノ相ヒ連屬スルヲ
要セス唯タ家譜ノ来歴純旦ヲ古ニシテ未タ輙ク其ノ
原始ヲ知ルヘカラサル者ヲ以テ相ヒ崇フル而已矣
各家ノ長筴百人相ヒ會シテ事ヲ議スル者アリ之ヲ「コ
ミシヤ。キユリアタ」(大隊會)ト称ス又タ三箇ノ黨類中ニ
就テ別ニ其ノ老練ノ輩若干(其ノ數「デエンス」ノ數ニ称
ヒ「デエンス」一官ヲ常法トス)ヲ揀ンテ之レニ充テ大
隊會議事ノ考案ヲ艸セシムル者アリ之ヲ「セナート」(元
老官)トカフ「セナート」ノ外又タ国王アリ元老官之ヲ指
名シ「キユリー」之ヲ撰定シ以テ衆民ヲ統轄シ以テ施政
府ヲ主宰ス
我輩ハ今マ其ノ方向ヲ一轉シ「アレフス」ノ根元ヲ尋ヌ
ルニ其ノ必然降虜ト帰化人トノ遂ニ羅馬衆民ト成リ
シ者ナルヲ知ル而シテ其ノ開国ノ首部ニ當ツテハ「ポピ

ユロス」之ヲ視テ以テ法教上ノ権理ヲ有セサル者ト為シ偏トヘニ弊シテ政治上ノ権理ヲ与ヘサル者ナリシ故ニ斯等ノ悶アタヘキ人民ハ長ク政治ノ範圍ヲ窺フヲ得ス「ポピユロス」ノ抑壓ヲ受クルヿト殆ント百數年狂寃モ亦タ極ルト謂ツヘシ然レトモ其ノ漸次ニ国民ヲ平均ニスルノ目的ヲ以テ「セントユリー」(毎百人ヲ一組トシ立法官ヲ撰フノ法)ノ法ヲ設置シ(族民ノ)両タヒ會同ヲ催フサシムルニ及シテ始メテ議政ノ門戸ヲ放ツテ「プレブス」ノ入ルニ任セタリ尓来「コミシヤセンチユリアタ」ノ勢ヒ漸ク盛大ニ趨キ方サニ「コミシヤキユリアタ」ノ権勢ヲ横キ(奪ヒ)踵ヒテ「コミンヤ。ウリビユタ」ノ起ルニ至ツテ始メテ「プレブス」ノ勢力ヲ発動シタリ

斯ク「プレブス」ノ勢力カヲ発動スルニ拘ハラス當時ニ民ノ交通ハ猶ホ依然トシテ旧貫ニ仍レリ是ヲ以テ縦タヒ「センチユリア」會同ニ於テ決議スル者アリト雖モ「コミシヤ。ユリーアタ」ノ識認定断(其ノ定断ヲ称シテ特ニ宗旨ノ定断ト云フ)ヲ経ルニアラサレハ之ヲ施行スルヲ許サルナリ又タ「プレブス」ヲ「ポピユロス」ノ族中ニ編籍スルヲ許サヽルナリ

夫レ然リ斯ノ草創ノ時代ニ當ツテハ羅瑪国モ亦タ一

定普通ノ律例アラサルナリ唯タ事ニ臨シテ俄カニ之
レカ條規ヲ作為シ其ノ一時ヲ苟偸セシノミ然リ而シ
テ是ノ時ニ當ツテ上ノ所謂ル元老官ハ国王ノ命ヲ奉
シ法案ヲ草創潤色シ之ヲ「コミシヤ・キユリアタ」ニ廻シ
議定セシムルヲ以テ其ノ恒例トセリ然レトモ「コミシヤ・
セシチユリア」ノ起立シ漸ク其ノ政權ヲ占有シテ以来
「コミシヤ・キユリアタ」ハ唯タ其ノ変案ニ識認定斷ノ虚
礼ヲ行ヒシノミ
国王ハ施政府ヲ主宰タルノミナラス又タ司法ノ大判
官タリ故ニ一切ノ訴訟犯罪等皆ナ国王ノ審斷ヲ経

ヘキ者トス然リ而シテ其ノ族ノ「ポピユロス」ニ係ル者
ハ若シ国王ノ定斷ヲ以テ不當ナリトセハ之ヲ「コミシ
ヤ・キユリアタ」ニ控訴スルノ特權ヲ有スト雖モ其ノ「プ
レブス」ニ係ル者ハ「ベレリエン」ノ法ヲ擧行スル以前ハ
之ヲ有スルコト能ハサリシ
且ツ凡ソ国王ニ於テ俗事(法教ニ對シテ云フ)一切ノ訴
訟犯罪ヲ審斷スルハ唯タ司法ノ大判官タルノ故ノミ
ニ非ラス又タ法教ノ首長タルノ故ヲ以テナリ故ニ其
ノ附屬ノ法徒ヲシテ間々俗事ノ裁判ヲ主トラシムル
コトアリシ蓋シ「ポピユロス」ノ私法大抵法教ノ神法ト

相ト類似シタル者ナレハナリ國王ヲ奪位制スルニ
然リ而シテ終ニ其ノ國王ノ廢位ヲ廢シ及テ二民ノ凌轢漸ク
劇烈ノ形ヲ見ハシ「プレブス」ノ族民ハ唯タ「ゼ」「リア」ノ
法ヲ以テ控訴ノ特權ヲ有シタルノミナラス又タ耶蘇
紀元前四百五十六年ノ時代ニ當ツテ國族ヲ聚メテ「ア
ベンタイン」丘ニ居所ヲ分畫シ又タ「パツリシエン」ニ迫
リ嘗テ負フ所ノ欠債ヲ廢棄セシメ又タ先セテ「ツリビ
ユン」首メハ二員ダリ後チ之ヲ增スヲ置キ「パツリシエ
ン」ノ暴擧ヲ抑制シ以テ自己ノ族民ヲ保護セシムルニ
至レリ

斯ノ事情ニ依リテ「コミシヤ。ツリビユタ」ハ大ヒニ其ノ
勢カヲ益シ稍々盛大ノ地歩ヲ占メタリト雖モ法司ノ
權尚ホ特ニ「パツリシエン」ニ帰シ凡ソ族籍ノ「プレビエ
ン」ニ係シ者ハ一旦法司ノ定斷ヲ受ケ其ノ曲非ニ一変ス
ル者ハ死刑誅罰ノ外ハ疑ヒトシテ不服ナリト雖モ之レカ
控訴ヲ爲スヲ許允セス且ツ許多ノ權理ニシテ理論上
既ニ「プレビエン」ニ屬スルヲ許ス者ト雖モ其ノ之ヲ實
際ニ擧ルニ至ツテハ尚ホ或ハ之ヲ与ヘサル者多シ
然レモ「プレビエン」ノ族民ハ更ラニ其ノ勢カヲ培養シ
大ヒニ斯ノ抑壓ノ弊習ヲ刺衝セシヲ以テ終ニ耶蘇紀

元前四百五十一年ノ頃ロニ至ツテ漸ク羅馬政体ノ再變ヲ發動シ方サニ「デセンビリヤイト」(執政官ナリ其ノ負ル所ナ名而シテ其ノ半ハ「パツリシエン」ノ族党ヲ以テ之レニ充テ其ノ半ハ「プレビエン」ノ族類ヲ以テ充ツル者ナリ)ヲ設置シ諸ノ慣習ニ就キ其ノ法制タルヘキ者ヲ擇ヒ之ヲ聚輯シ以テ法表ヲ編成セシメ之ヲ鏤刻シ国民誦読ノ便ニ供スルニ至レリ之レヲ羅馬人其ノ法制ヲ記載編成スルノ權輿ナリトスフ今マ按スルニ前ノ所謂ル法表ナル者ハ即チ是レ羅馬人日用ノ習法ニシテ其ノ最モ世ニ切ナル者若干ヲ表出シ之レカ綱領ヲ示シ以テ国民ノ觀覽ニ供セシ者ナレハ其ノ大旨ヲ推シテ之ヲ諸ノ犯罪ニ擬スル等ハ常ニ法官ト明法学士ノ二者ヲ待ツモノナリ而シテ其ノ數ノ如キハ首メハ唯タ十箇ナリト雖モ後チ第四「デセンビリヤイト」ノ時ニ至ツテ更ラニ二箇ノ法表ヲ編成シ之レニカヱタレハ後世之ヲ十二法表(ツベルブ。テイフルス)ト名ク斯ノ法表ハ唯タ羅馬法制ノ大目ヲ挙クル者ナレハ素ヨリ寥々タル者ナリト雖モ「プレヒエン」ハ之ヲ以テ自カラ其ノ權理ヲ主張保護シ「パツリシエン」ハ之ヲ以テ其ノ暴威ヲ逞フスルコト能ハス又タ他年羅

瑪人ヲシテ夫ノ汗牛盈棟ノ律書ヲ編成セシメ今ニ至ツテ亦タ曾テ滅ヒサル者ハ實ニ斯ノ法表ヲ編成スルニ基リナルヲ知ラハ又タ必ス之レニ多々ノ看ヲ下スヘカラサルナリ

我輩ハ又タ回首シテ夫ノ「デセンビリユイト」ヲ設置シタル所以ノ目的ヲ繹ヌルニ羅瑪ノ史家ハ以テ二民ノ分界ヲ一致シ政治上ノ權理ヲ平等ニセンカ為メナリト云ヘリ然レトモ我輩ハ羅瑪古史ニ就テ其ノ効驗ノ如何ヲ察スルニ唯タ視ル、那ノ目的ハ徒ラニ空望ニ帰シ終ニ其ノ標點ニ到着スルヲ得サリシコトヲ請フ試ミニ之ヲ言ハン夫し「プレビヱン」ノ族民ハ擇ハレテ「デセンビリヱイト」ノ半員ニ充ツルト雖氏之レカ為メ「コミシヤツリビヱタ」ノ停會ト「ツリビユニ」ノ廢絶トニ遇フヲ以テ「將プレビヱン」党ヲ助成スル者ナク唯タ那ノ官中ニ孤立シテ其ノ權ヲ實行スルニ由ナク常ニ數歩ノ輸シテ之ヲ「パツリシヱン」ノ党ニ與ヘタリ故ニ第二「デセンビリヱイト」ノ時ニ當ツテ「パツリシヱン」ハ擅ラニ二箇ノ法表ヲ編成シ以テ之ヲ十箇法表ニ加ヘ將サニ暗々ノ中ニ在ツテ「プレビヱン」ヲ抑制スルノミナラス(シタロ)「ー」之ヲ論破スル頗ル密ナリ又タ顯ハニ二民

相婚ノ禁法ヲ主張シタリ是レ以テ其ノ遂ニ目的ノ標
點ニ到着スル能ハサル所以ヲ視ルヘシ
然レトモ是ノ時ニ當リテ「プレビヱン」ハ既ニ受制ノ物
ニ非ラス方ニ抑壓ノ覇軛ヲ脱シ公ニ平等ノ權理ヲ保
有セント鋭意之ヲ求メラ止マサルヲ以テ終ニ「ホレテ
ヲス」等ノ法ヲ擧行セシメ凡ソ「コミヤツリビユタ」ノ史
議ニシテ既ニ元老官及ヒ「キユリー」ノ議認ヲ經ル者ハ
皆ナ之ヲ羅馬ノ国法ト認メ之ヲ遵奉スヘシト公布セ
シムルニ至リ是ニ於テカ「プレビヱン」ハ頓ニ其ノ勢
力ヲ發揮シ躍テ「ヲセンビリユイト」ノ廢官ヲ則致シ「ケ

又リユン」ノ法ヲ擧行スルニ及ンテ始メテ二民相婚ノ
法禁ヲ解キタリ時ニ耶蘇紀元前四百十五年ナリ
斯ノ如クニシテ二民一致ノ目的漸ク其ノ緒ニ就クト
雖モ「プレビヱン」ノ年終政治上ノ權理ヲ全有シタル者ハ
却テ一紀(一百年ヲ云)有半ノ後ニ在リ(蓋シ遲回ト謂ヘキモ又タ遲鈍ト謂ツヘキカ)古
史ニ云ヘルコトアリ曰ク耶蘇紀元前三百八
十七年「ホレテンシヤ」ノ法ヲ擧行シテ以來「プレビヱン」
ハ收稅上ト教法上トノ二權ヲ全有シ又タ「コンソル」(總
裁官)以下何等ノ官タルモ之レニ充ツルヲ得ル爾來全
ク二民ノ分界ヲ一致シ又タ相ヒ軒輊セサルナリト史

十八

し然り我輩ハ耶蘇紀元前三百八十七年ヲ以テ二民一致ノ紀元ナリト認メサルヲ得サルナリ是レ我輩ノ嘗テ「プレビエン」ノ政治上ノ權理ヲ全有シタルハ却テ一紀有半ノ後ニ在リト云フ所謂ナリ

既ニ前款ヲ以テ二民一致ノ畧史ヲ終ヘタレハ我輩ハ今マ始メテ羅瑪法例ノ沿革ヲ說キ去ルノ機ニ遇ヘリ惟フニ讀者ハ久シク目ヲ二民ノ凌轢ニ曝ラシ大ヒニ心ヲ倦マシメタルヲ以テ深ク斯ノ機ニ遇フヲ期望シタルナルヘシ若シ夫レ然ラハ我輩又タ之ヲ說クヲ遲回スヘカラサルナリ

按スルニ羅瑪ノ律例ハ後世ノ所謂ル「デヨス、シビル」ナル者ヲ以テ其ノ鼻祖トセリ蓋シ前ノ所謂ル十二法表ナル者ハ羅瑪有記律ノ首ノナリト雖モ畢竟「デヨス、シビル」ノ曲部ヨリ御出シ那ノ無記ヲ轉シテ這ノ有記ト爲シタル者ニ過キサルヲ以テ我輩ハ上文ノ說ヲ妥當ナリト認メサルヲ得サルナリ

「デヨス、シビル」トハ何ソ曰ク內國ノ私法ナリ蓋シ「デヨス、チユラリ」(天法)「デヨス、ゼンタイル」(通法)ニ對スルノ稱ナリ而シテ其ノ原始ハ大抵古昔ノ風習ニシテ唯タ之ヲ人口ニ傳ヘ筆記スルナキヲ以テ時或ハ祢シテ

無記律例トカフナリ
然リ而シテ其ノ意太利ヲ征服シ踵ヒテ近傍ノ諸國ヲ
滅スルニ及ンテ羅瑪法制ノ變一ニシテ足ラサルナリ
蓋シ其ノ新降ノ人民ヲ処スル自カラ羅瑪本土ノ人ニ
殊異シ一種別様ノ法度ヲ定置シ之ヲ齊治セサルヲ得
サレハナリ然レトモ今マ之ニ就テ之ヲ考フルニ羅
瑪人ノ新降人民ヲ待ツ頗ル順良ト謂ツヘシ之ヲ古代
諸國ノ為ス所ニ比較スルニ更ラニ勝ル万々ナルヲ
覺ユルナリ
我輩ハ今マ試ミニ之レカ證左ヲ挙クルニ羅瑪人民ハ
其ノ形況ト時宜トヲ審シ新降ノ居民ニ与フルニ種々
ノ權理ヲ以テセリ而シテ其ノ中最モ著明ニシテ史書
ニ載シテ今マ尚ホ称セラルル者ハ「デヨスラチノム」「デヨス
イタリコム」ノ二者ナリ蓋シ「デヨスラチノム」ハ意太利
ノ諸州ニ就キ其ノ人民ノ形況ト時勢ノ便宜トヲ審シ
羅瑪國民タルノ特權ヲ或ハ全与或ハ半与シタル者ヲ
云ヒ「デヨスイタリコム」ハ其ノ該都府ノ獨立自治ヲ許
允シ曾テ國費ヲ賦課セサルヲ言フ者ナリ
之レニ加ルニ外邦ノ交通漸ク緻密ナルニ及ンテ羅瑪
律例ノ變遷又タ更ラニ著シキ者アルナリ蓋シ外交ノ

起ツラヨリ以来訴訟犯罪ノ内外人ニ跨リ係ル者紛々
踵キ出テ之ヲ懲治スル未タ全ク羅瑪ノ内法ヲ以テス
ヘカラス又タ必ス外邦ノ制度ヲ参考ヘ普通ノ公理ニ依
ツテ之ヲ裁断スヘキ者多ケレハナリ是ニ於テ乎デヨ
ストゼンタイヲ山(通法)ヲ挙行シ以テ内法ト並ヒ行ヒ凡
リ裁判ノ外人ニ係リ或ハ内外人ニ跨リ係ル者ニシテ
其ノ内法ヲ以テ之ヲ擬スヘカラサル者ハ必ス公道情
義ノ所存ヲ考ヘ勉メテ平等ノ処断ヲ行ヒ以テ内法ノ
不全ヲ齊整スルヤリ是ヨリ以来訴訟ノ内邦人ニ関係
スル者ハ時或ハ内法ノ不公ナルヲ不満ナリトシ公道情

義ノ所存ヲ考ヘ通法ヲ以テ之ヲ處断セシコトヲ請フ
者間々少ナカラス終ニ内法ヲ廢シ通法ヲ以テ之レニ
更フル者アルニ至レリ是レ以テ法制ノ一變ヲ見ルヘシ
踵ヒテ司デクタポルヘツテユア」(每「リートル」即チ
裁判長ノ拝官ノ始メニ當ツテ其ノ在職中遵依施行ス
ヘキ諸条規ヲ豫メ編纂公行スル者)ヲ公ニシ発セテ「デ
ヨスヲノレリヲム」(フリートル所定ノ法)ヲ立着スルニ
及ンテ内法ノ齊頓始メテ其ノ緒ニ就ケリ
斯ノ如ク諸種ノ縁故ヲ以テ法制齊整ノ域ニ進入シタ
ルノミナラス又タ「デユリスプリユデンテス」(明法士)ノ

起ルニ及ンテ或ヒハ成法ヲ説明シ或ヒハ法理ヲ演説シ以テ其ノ舊故朋友隷屬ヲ導キ啓キタルヲ以テ頗ル其ノ進歩ヲ助成シ大ヒニ之レカ齊整ヲ奬勸セリ按スルニ共和變政ノ首部ニ當ツテハ各民尚ホ旧習ヲ脱却スル能ハサルヲ以テ未タ諸法ノ旨趣ヲ味ハサルノミナラス又タ裁判受理ノ定日及ヒ訴訟ノ規矩等ニ至ルマテ能ク之ヲ暗知スル者ナリ唯タ吏ノ問ツリシエシノ族民ニ聞テ之ヲ知ルノミ然リ而シテ數年ノ後チ共和政治ノ進動スルニ隨ツテ諸法ノ風翕然トシテ各民ノ間ニ起リ明法ノ學士彬々トシテ輩出セリ是ニ於テカ国内有望ノ志士ニシテ能ク成法ニ通シ精シク法理ヲ暁ルノ徒ハ競ツテ各民ノ求需ニ應シ為メニ訴訟ノ頃序ヲ説キ花セテ訴状ヲ代書シ以テ寃狂ヲ雪伸スルヲ勉メタリキ然リ而シテ斯ノ学士輩ハ時或ヒハ法律ニ關スル諸疑ヲ解キ又タ或ヒハ事主ト法庭ニ同伴シ其ノ持説ヲ吐露セシコト屢々ナルヲ以テ断法ノ某イ際ニ其間々其ノ所取ノ解義持説ヲ採用シ終ニ法制ノ一部ヲ創成スルニ至ル者而シテ共和ハ晩年ニ至リ明法士ハ大抵希臘流ノ理学ヲ講シ諸科ノ学問ニ通暁スル者多キヲ以テ盛シニ普通ノ法理ヲ主張シ勉メテ旧制ノ非理ヲ

排駁シ以テ直接ニ其ノ勢力カヲ法庭ノ処断ニ振フヲ得タシハ法制ノ變是ニ於テノ又タ止ムヘカラサルナリ

格スルニ希臘ノ理学ヲ講スルニ因テ新法ノ羅瑪律例中ニ加入セラレシ者頗ル多シト雖モ其ノ中最モ衿要ニシテ且ツ著明ナル者ハ夫ノ「レックス、子ナユリイ」即チ天法ナリ

我輩之ヲ「シニロ」ニ聞クニ曰ク天法ノ說ハ「ストイツク」学徒ノ創スル所ニシテ特ニ「クリシポス」ノ主張セシ所ニナリト我輩今マ退ヒテ之ヲ考フルニ「子ユテ」ハ「シニロ」ノ所謂ル「モンドス」ニシテ此ニ之ヲ百物ノ天性ト譯スル者ナリ然リ而シテ「ストイツク」ノ学徒ハ常ニ斯ノ百物ノ天性ヲ認メテ天理ノ所導ナリトスシハ又之普通ノ法度ナリト云ヘリ蓋シ天理ハ勸善懲悪ノ權柄ヲ維持スル者ニシテ所謂ル普通ノ法度ハ懲悪勸善ヲ以テ其ノ目的トスレハナリ夫レ然リ故ニ箇ニ之ヲ說ケハ「レックス、子ユラリイ」ハ天性ノ動行ヲ定治スル權力ナリ「ストイツクス」学徒ノ說ニ曰ク世ニ所謂ル人事ノ義理ナル者アリテ天性ノ義理ト相ト殊異スル者アルニ似タリト雖モ既ニ義理ナリト云ヘハ天人均シク一ナリ宜シク二アルヘカラス故ニ天性ノ理ハ

猶ホ人事ノ理ノ如ク必ス相ヒ戻ル者ニ非ラサルカリ
是ヲ以テ天法ハ天性ノ法度タルヘキ又タ人事ノ法度
タルヘキナリ又タ云フ德行ハ義理ニ協ヒ天法ニ戻ラ
ス故ニ人間ニ永存シテ未タ嘗テ衰ヘサルナリト斯ノ
說ヤ共和ノ晩年ヨリ漸ク羅瑪ノ律上ニ浸潤シ其ノ法
學士ハ往々德義ヲ以テ法制ト相ヒ連屬スル者ナリト
シ敢テ其ノ分界ヲ立テス常ニ云ヘラク天法ハ法制ナ
リ豈ニ又タ羅瑪ノ律中ニ編入セサルヲ得ンヤト是ヲ
以テ「プリートル」ノ如キモ亦タ其ノ裁斷ヲ際ニ當ツテ
必ス天法ニ戻ラサルヲ注意シ又タ必ス德義ノ大本ヲ
蔑視スルヲ得サルナリ支レ此ノ如シ故ニ內法ノ中德
義ト相ヒ違戻シ正道ヲ得サル者アルニ遇ハヽ必ス天
法ヲ以テ之ニ代フルニ至レリ是ニ於テカ其ノ法制ノ
變更ヲニ甚シキ者アルナリ我輩故ニ曰ク希臘流ノ理
學羅瑪ニ入リ大ヒニ其ノ法制ヲ一變セリト
我輩ハ前ノ數款ヲ以テ建國ノ初メヨリ共和ノ晩年ニ
至ルマテ凡ソ數百年ノ久キ何等ノ變遷ヲ羅瑪律上ニ
發動セシカヲ說クスルカ故ニ勢ヒ本款ヲ以テ帝國再
立後ノ沿革ヲ說キ去ルヘキカ如シ然リ而シテ我輩ハ
今マ敢テ事ニ茲ニ從ハス少焉ク地歩ヲ他路ニ一轉シ

夫ノ立法官ノ諸種ヲ畧叙スヘシ蓋シ立法官ハ法制ノ泉源ニシテ其ノ變遷ヲ知ルハ柳モ又タ法制ノ沿革ヲ徵査スヘキ一要路ナレハナリ

按スルニ「コンシヤセンタユリアタ」ハ羅馬立法官ノ元始ト謂フヘキ者ニシテ(是ヨリ先キ「コンシヤキユリアタ」ナル者アツテ諸法度ヲ議決スルコトアリシト雖モ未タ立法官ノ名目ヲ下タスニ足ラサル者アリ故ニ我輩ノ所說方ニ本文ノ如シ)一時其ノ勢力ヲ政治上ニ振ヒ諸々法制ノ廢行ヲ專ラニセシト雖モ「コンシヤツリビユタ」ノ漸ク強大ヲ致シ終ニ「ホーテンシヤ」ノ法ヲ擧行シ立法ノ全權ヲ特有セシヨリ羅馬法制ノ改定增補一ニ其ノ手ニ成リ「コンシヤセンテユリアタ」ハ總ニ開戰講和ノ諸事ヲ公議シ并セテ高官ノ輩ヲ公撰スルノ諸事ヲ擧行スルニ過キサルナリ

然リ而シテ其初ノ晩年ニ至リテ「セナート」(元老官)ノ進動漸ク其ノ端ヲ顯ハシ其ノ議定ノ諸事公然羅馬ノ國法タルヘキノ名義ナシト雖モ稍々擧行ノ實力ヲ有シ他日盛强ノ地歩ヲ堅クセリ是ニ於テカ元老官ハ停法ノ特權ヲ有シ某々ノ特法ヲ停止シ衆民被束ノ苦ヲ蠲カシコトヲ求メタリキ加之宗教ニ關スル諸疑ヲ判決

スルノ時ニ際シ舊法ノ中認メテ以テ停廢スヘシト爲ス者アルニ遇ハヽ其ノ全部カ或ハ其ノ一部ヲ停廢スルノ特權ヲ有シ又タ某々ノ官人ニ某々ノ令ヲ下シ之ヲ訓示スルニ當ツテ之レニ附書シ以テ屬民ヲシテ其ノ舉行ノ實ヲ認體セシムルノ權理ヲ有セリ

「パクタ」翁嘗テ云ヘルコトアリ曰ク共和ノ晩年ニ當ツテ元老官ハ屢々宗教警察及ヒ内務ニ關スル諸則ヲ特定シ尚ホ旦ツ或ハ羅瑪ノ私法ニ關シ其ノ諸條規ヲ定置シタルコトアリト是レ以テ元老官進動ノ勢ヲ憑徵スルニ足ルナリ

我輩ハ又タ之ヲ古史ニ徵スルニ元老ノ議官ハ大抵國内ノ富國有力ナル者ノミナラス又タ内乱ノ時機ニ乘シ頗ル其ノ勢力ヲ培養セシヲシテ以テ帝國再建ノ權ニ當ツテ能ク立法ノ權柄ヲ維持シ其ノ本分ヲ盡セシ者ナルヲ知ル矣

嗚呼共和ハ既ニ廢シ帝國ハ再タヒ建ツ當時羅瑪國立法ノ形情ハ果シテ如何ンソヤ我輩ハ嘗テ之ヲ古史ニ徵ク曰ク帝國再建ノ首メニ當ツテハ帝王ノ威權頗ル制限スル所ヒアリテ其ノ實共和ノ統領ニ異ナラスト雖モ帝王「オーグストス」ノ即位ニ及ンテ始メテ立法施

政等ノ諸權ヲ兼有シ其ノ子孫相ト踵ヒテ独裁ノ君權ヲ專ラニセシヨリ羅瑪ノ法制ハ一二帝王ノ意思ニ成ル者ナリト

按スルニ刺甸語ノ所謂ル「イムペリヲム」ハ此ニ之ヲ統轄ノ大權ト譯シ衆民ヲ總轄統帥スルノ謂ナリ蓋シ「ツクスシ」ヂア」(帝国法)ノ擧行ニ及ンテ羅瑪人ノ之ヲ以テ其ノ帝王ノ位ヲ踐ムル者ニ授ケ衆民制馭ノ全柄ヲ附与シタル者ナリ又然リ該法ノ擧行ハ則チ「シサー」帝家專制ノ發軔ニシテ是レヨリ以來羅瑪国民ノ帝王タル者ハ皆ナ其ノ意思ヲ遅フシ其ノ衆民ヲ專治シテ妨嫌アラサルナリ然リト雖ヒ帝国再建ノ首部ニ當ツハ尚ホ共和ノ餘風ヲ存シ衆民自治ノ氣象ヲ全廢セサルヲ以テ當時登踐ノ諸帝王ハ每ニ之レニ遮蔽セラレ縱マヽニ其ノ虐政ヲ暴行スルコト能ハス帝王「オーグスト」ノ時ト雖ヒ尚ホ且ツ衆民ト元老官ノ認識ヲ經ル者ニ非ラサレハ饒タ帝王ノ號令ナリト雖ヒ之ヲ擧行シテ羅瑪ノ国法ト爲スヲ得サリシ也

斯ノ如ク衆民自治ノ氣カヲ以テ最初ハ帝家抑壓ノ暴威ヲ抗禦シ得シト雖ヒ其ノ氣カハ日々ニ衰頽ヲ致シ以テ壓制門戸ノ鎖鑰ヲ放チタレハ帝家ノ後嗣タル者

如何ンソ坐視シテ之レニ突入スルヲ狐疑センヤ是ニ於テカ立法施政司法ノ三柄一ニ帝王ノ一身ニ帰シ是ヨリ以還羅馬ノ法制一ニ其ノ意思好悪ニ成リ支ノ元老官ノ如キハ徒ラニ其ノ旨ヲ受ケテ之レカ文書ヲ艸綴スルニ過キサルナリ

故ニ當時所刊ノ「ユデクタ」(国帝自撰之律令)ハ更ラナリ「マンダタ」(指令集)「デクレタ」(断案彙纂)及ヒ「レスクリフタ」(疑法帝答)ノ如キモ皆ナ国帝一人ノ意思ヲ表明セル者ニ過キサルナリ是ニ於テカ羅馬立法官ノ情況殆ント言フニ忍ヒサル者アルナリ

我輩ハ既ニ前款ヲ以テ立法官沿革ノ畧史ヲ演ベシ未レハ今マ方サニ演説ノ進線ヲ回復シ以テ法制ノ沿革ヲ列叙スヘシ以フニ我輩ハ嚮キニ第……款ヲ以テ共和ノ晩年ニ當ツテ羅馬律上ニ発動シタル變遷ヲ演説シ了レハ下款以下數項ヲ以テ相ヒ干スヘキ者ハ唯リ支ノ帝国再建後ノ沿革ニ係ルノミ支レ然リ読者乞フ之ヲ領シ其ノ説ノ所ヲ分解セヨ

按スルニ帝国再建ノ後ニ當ツテ立法官所定ノ法制ト名ツクヘキ者ハ唯リ支ノ「セナートスコンシルタ」アルノミ今マ之ヲ支ニ徴スルニ是ノ時ニ當ツテ官人薦辞

ノ權ハ既ニ「コンスタンチノープル」ヲ去リ移ツテ元老官ニ帰シ元老官ハ又タ国事犯ノ罪人ヲ審判シ其セテ諸裁判所ノ上告ヲ受理決断スルノ權力ヲ有セリ

我輩又タ古史ニ就テ之ヲ考フルニ元老官ハ帝国再建ノ首部ニ當テ其ノ共和ノ晩年ニ在ツテ既ニ掴握シタル勢力ノ餘燼ヲ振ヒ頽ル帝王ノ所為ニ抗シタリト雖モ漸次ニ其ノ勢力ヲ減失シ終ニ帝「オーグストス」ノ後ニ至ツテハ全ク其ノ面目ヲ改メ唯タ集同シテ帝王所定ノ法例ヲ体認スルノ虚禮ヲ行ヒシ而已矣

是ヨリ後チ帝「ハヅリアニ」ノ時ニ至テ當時有名ナル法学士「ガルビラス」「デユリアノス」ハ帝ノ詔ヲ受ケ永世告示ヲ公ニシ半ハ舊時ノ告示ヲ以テ之ヲ編ミ半ハ其ノ自カラ鑒定シテ以テ告示ト為スヘキ者ヲ抑サミ之ヲ編纂シ名ケテ永世告示ト云ヘリ是ヲ以テ同ハヅリアニ帝ノ後ハ裁判長其ノ舊例ニ依ツテ拜命ノ首メニ當テ別ニ其ノ告示ヲ造ラス唯タ夫ノ永世告示ノ欠乏ニ遇ハヽ時ニ之ヲ補綴スルアリシノミ

我輩ハ叙シテ此ニ至レハ則チ又タ演説ノ方向ヲ一轉シ以テ當時法学士ノ景況如何ヲ考察シ去ルヘキヲ信スルナリ蓋シ是ノ時ニ當テ法学士ノ著書断案頗ル

其ノ勢カヲ羅瑪ノ律上ニ振フ者アルヲ以テ苟モ之ヲ考察シ去ラハ方ニ以テ羅瑪律沿革ノ一斑ヲ徴スルニ足ルモノアレハナリ

始メ「オーグスト」ノ帝位ニ即クヤ大ヒニ視ル所アリ多ク法学諸名士ノ断案ヲ公認シ以テ之ヲ合法的ト為セル者アリ躍ヒテ帝「ツリアン」ノ即位ニ及ンテ詔シテ凡ソ法例学士ノ断案ニシテ法官ノ意ト相ヒ戻ラサル者ハ咸ク著シテ羅瑪法例ト為スヘシトスフニ至テ法例学士ノ断案持説始メテ其ノ勢カヲ羅瑪律上ニ有シ勃然トシテ起リ又タ之ヲ拒ムヘカラサル者ノアリ

加之帝「オーグスト」ノ時ニ當ウテ二箇ノ明法学士アリ曰ク「オチヤスチヤス」曰ク「アチーラス」ケピトリ「ヨ」此ノ二法学士ハ共ニ法制ニ明カナリト雖モ其ノ見ル所相ヒ同シカラス各其ノ持説ヲ主張シ互ニ其ノ党派ヲ立テタリ按スルニ「ケベ」ハ博学多識頗ル理論ヲ好ミ凡ソ法制ヲ推理シテ其ノ論旨ニ合ハサル者ハ咸ク刪削廃止シ其ノ之レニ合ヘル者ヲ以テ之レニ更ヘントス主張シタリ「ケピトリ」性直實敢テ之ヲ許サス以為ラク宜シク勉メテ古制ヲ存シ未タ妄リニ新法ヲ製スヘカラスト是ニ於テ当時ノ法例学徒各其ノ所好ニ

應シ競ツテ彼レニ就キ爭フテ此レニ入リ両党對峙相
ヒ共ニ鬪説シホタ曾テ相ヒ下ラサルナリ後世ノ人此
ノ両学党ヲ称シテ一ヲ「プロキユリアン」(「レベヲ」ノ党ナ
リ其ノ高門ノ弟子「ガロキユロス」ノ名ニ取ル)ト云ヘ一
ヲ「サビニエン」(「ガビトヲ」ノ党ナリ其ノ門人「サビノス」ノ
名ニ取ル)ト云ヘリ
我輩ハ今マ斯ノ事情アルヲ詳カニシ徐ニ之ヲ顧ミレ
ハ則チ他日羅馬ニ五箇ノ碩法学士ヲ生シタル所以ノ
偶然ニ非アラサルヲ知ルナリ五箇ノ碩法学士トハ誰ノ
日ヲ「ガイアス」曰ク「ポヒアノス」曰ク「ポール」曰ク「ヲルピ
ヱノス」曰ク「モデスチノス」是ナリ
我輩今マ退ヒテ右五大家ノ畧傳ヲ按スルニ「ガイアス」
ノ行状ハ史書徵憑スヘキ者ナシト雖モ其ノ「ハブリヱ
ヌ」ノ時ニ始シ「サビニエン」ノ党派タリシハ頗ル信憑スヘ
キ者アリ而シテ其ノ數十著作ノ中最モ著名ニシテ
今人ノ耳ニ熟スル者ハ丈ノ羅馬律例ノ彙纂ニシテ即
チ「ガイアス」ナリ此ノ書ヤ深ク「ベロナ」府教會ノ書籍室
中ニ埋没セラレ久シク世ニ顯ハレス世人能ク其ノ世
ニ傳フルアルヲ知ル者ナシ降テ耶蘇降生一千八百
十六年ノ頃ロニ至テ「ニエーボル」ナル者

アリ夫ノ書室ニ入リ周密ニ其ノ書目ヲ調査スルニ及ンテ始メテ其ノ書ヲ查出シ取リテ之ヲ閱スルニ頗ル羅馬律例ノ要領ヲ盡シ大ヒニ世ノ古法学徒ヲ補ス(線)ヘキヲ思ヒ方ニ之ヲ天下ニ公ニセリ是ヨリ歐洲各土ノ人民相ヒ爭テ之ヲ翻刻シ今ニ至テ又タ再タヒ湮滅セサルナリ

按スルニ「ヂヨスチニヱン」ノ法例彙纂(要録)ハ其ノ基源ヲ「イカス」ノ彙纂(要録)ニ取ル者ニシテ唯タ之ヲ當時ノ勢ニ考ヘ少ラク之ヲ斟酌セシノミ故ニ彼レヲ以テ此レニ較シ此ヲ以テ彼レニ比スレハ彼此相ヒ発明スル所アリテ頗ル学者ノ疑ヒヲ解キ其ノ益少ナカラサルナリ況ンヤ彼此ヲ相ヒ較ヘテ一一ニ之ヲ詳ラカニスレハ前後法制ノ寖遷アリシヲ查出シ因テ以テ羅馬法制ノ沿革ヲ懲憑スルノ一助タルヘキ(ノ)ヲ(ニ)故ニ我輩ハ他日斯等ノ法例彙纂(要録)ヲ重譯シ以テ読者ノ目ヲ汚サントスルセリ読者若シ其ノ期アルニ遇ハヽ幸ニ一読ヲ賜ヘ

「イーミリアノス」ハビニアノス」ハ頗ル「セプチミノス」セベロス」帝ニ親信セラレ故ヲ以テ帝ノ在位中ハ常ニ鈞要ノ地ニ居リ司法ノ長官タリト雖モ帝殂落ノ後ハ帝子「カラカルラ」ノ疏ンスル所ロト為リ職ヲ罷リ家居セ

リ居ルコト少馬アリテ「カラカルラ」其ノ兄「ゲタ」ヲ弑シ方ニ其ノ悪ヲ掩ヒ以テ世譏ヲ免レント欲シ密ニ「パピニアノス」ニ命シ已レヲ保助シ以テ其ノ措置ノ私シナラサルヲ證セシメント欲セリ然レトモ「パピニアノス」敢テ其ノ命ヲ奉セス固ク之ヲ辞去セリ「カラカルラ」之ヲ聞キ大ニ震怒シ直ニ死ヲ「パピニアノス」ニ賜ヒ以テ其ノ怨恨ヲ漏セリ史ニ云フ「パピニアノス」ノ著書頗ル廣シト雖モ多ク後世ニ傳ハラス唯リ問答解ノ三本アリテ羅馬法例大全ノ中ニ存スルノミト「ポール」「ウルピヤン」「モデスチノス」ハ皆ナ「パピニアノス」ノ門人ナリ而シテ「ダニエル」「ポール」ハ「ヨ」キザンドルセベロス」帝ニ事ヘ參政兼司法長タリ其ノ著書頗ル多ク惟リ律例大全ノ中ニ編成スル者ノミナラス又タ「リセフチーセンテンチニイー」及ヒ「アドヴヨケトム」等アリテ後世ニ傳ハル者多シ

「ドミチヲスヴルヒアノス」モ亦タ多ク書ヲ「セフチニノスセベロス」「カラカルラ」「ヨ」帝ノ朝ニ著ハシ後チ「アレキザンドルセベロス」ニ事ヘ司法長タリ遂ニ御前ニ於テ兵卒ノ殺ス所トナル按スルニ其ノ著作ノ多キ以テ驚クニ足ル蓋シ法例大全ノ引用スル所過半其ノ所著ニ

係リ又タ別ニ「フラグメンタ、ヲルピアエ」數十卷アリテ今ニ傳ハレハナリ

「ヘレニニチス、モデスチノ」ノ行狀ハ史書考フヘキ者ナレト雖モ其ノ「アレキザンドロス」ニ事エ參政ノ一人タリシハ又タ疑フヘカラサルナリ著書アリ數百皆ナ後世ニ傳ハラス唯タ律例大全中其ノ著作ヲ引用スル者數条アル而已矣

斯ノ五大家ノ起ルニ因テ許多ノ變遷ヲ羅馬律上ニ生シタルハ歴々トシテ見ルヘキノミナラス又タ當時基督教ノ羅馬國ニ入リシニ因リ幾多ノ改革ヲ其ノ律例ニ生シタルハ我輩ノ疑ヲ挾ムヘカラサル者ナリ我輩今マ試ミニ「ガイアス」ノ法例彙纂ヲ取リ之ヲ「デヨスチニエン」ノ彙集スル所ニ較スルニ婚姻及ヒ相續ノ制等ヨリシテ以下頗ル變更スル所アリ惟フニ是レ新教ノ漸ク人心ニ浸潤シ勢ヒ之ヲ變更セサルヲ得サル者ナ我輩故ニ曰ク基督教ノ入ルニ因テ羅馬法例ニ幾多ノ遷變ヲ生シタルハ又タ疑フ容ルヘカラサルナリト

我輩ハ既ニ前款ヲ以テ法制学士ノ景況ヲ叙シイリ漸ク夫ノ有名ナル帝「デヨスチニエン」ノ事ヲ叙スルノ期ニ遇フト雖モ敢テ直ニ帝ノ事ヲ叙シ以テ之ニ及ハ、

去ル先ツサキノ帝ロマドニヲ法ノ事ヲ叙セ

ト欲スルナリ

史ニ称ス帝「セヲドシヲス」第二世ノ位ニ即クヤ詔シテ羅瑪法例ヲ定撰編輯シ并セテ講法学舎ヲ君斯但地乃堡ニ設ケ以テ律例ノ講習ヲ勸メ又タ嘗テ詔ヲ下シ「ガイオス」以下五大家ノ所説ヲ著シテ以テ合法的ノ例制ト定メ凡ソ司法ノ判事タル者ハ必ス其ノ五大家ノ所説ヲ考ヘ其ノ多説ヲ取ツテ以テ諸ノ訴訟犯罪ヲ擬セシメ其ノ説ノ同数ニ遇ハヽ特ニ「パピニエン」ノ所説ヲ取リ其ノ所説ナキニ遇ハヽ始メテ自カラ擇フニ任セタリト我輩又タ之ヲ古人ニ徴ク曰ク耶蘇降生四百三十八年帝詔シテ「グレゴリアス」「ホルモゲニアノス」二学士ノ輯スル所ノ式様ニ倣ヒ「ヨンスタンチニ」以下諸帝ノ設置シタル法例ヲ編シ之ヲ世ニ公ニセリト我輩今マ叙シテ茲ニ至リ之ヲ回顧スレハ他日「ヨスチニアニ」ノ法例彙纂ニ大全等ヲ修輯スルハ實ニ基ク所ロアリテ然ル者ナルヲ知ルナリ

帝「ヨスチニヤニ」ハ東帝「ヨスチニ」ノ猶子トシテヲ以テ嘗テ入テ大統ヲ嗣キ羅瑪東帝ノ位ニ在ルコト三十八年ニシテ即チ耶蘇紀元五百六十五年ニ殂落セリ我輩今マ史ニ就テ同帝政治ノ況情ヲ考フルニ或ハ暴君

ノ一タルニ似タル者アリト雖モ其ノ法例ヲ纂集シ之ヲ世ニ公ニシ以テ當時ヲ利シ以テ後世ヲ惠ムニ至リテハ其ノ功德高大寧ロ他ノ惡事ヲ以テ之ヲ埋没スヘカラサルナリ

按スルニ耶蘇紀元五百二十八年ニ當テ帝詔シテ理事官十名ヲ撰ミ「セヲドシヲス」第二世所編ノ法例ヲ訂正シ增スニ爾来諸帝ノ定置シタル者ヲ以テシ更ラニ羅瑪國法ヲ編纂セシメ聖年四月編成リ既ニ上聞ヲ經ヘ之ヲ國内ニ頒ツ（咸リ）從前所定ノ諸例ヲ廢シ（國内ニ頒ツ）後世之ヲ用ヒスルニ至レリ（傳奉ニ至ル）ノ第一編纂法例ト云フ蹉ヒテ五百年十

年ノ十二月ニ至リ「ツライボニヌ」ノ嘗テ編法理事官ノ職ニ在リ頗ル能ク編纂ノ任ニ堪ヘタルト云フヲ以テ更ラニ詔シテ廣ク古哲ノ所著ニ就キ其ノ最モ切ナル者ヲ拔錦シ以テ羅瑪法例ノ大全ヲ作ラシム「ツライボ」ニヌ」乃チ詔ヲ奉シ自カラ輔ケ十六人ヲ撰ヒ之ヲシカ拔錦編纂ニ從事シ三年ノ星霜ヲ經ヘ即チ耶蘇降生五百三十三年ニ至リ五十卷ヲ刪定シ之ヲ上リ其ノ十二月始メテ帝ノ制可ヲ得ヌ之ヲ施行シ名ケテ法例大全ト云フ

始メ「ツライボニヌ」ニ命シ法例大全ヲ編セシムルヤ

惟フニ其ノ卷帙浩瀚加ルニ古今ノ法制ヲ網羅スル者ナルヲ以テ苟モ法制ノ大要ヲ講シ之ヲ識ス者ニ非ラサレハ亦タ輙ク之ヲ會得スヘカラサルヲ思フヤ帝乃チ別ニ「ツライボニヱ」「セヲフヒロス」及ヒ「ドロセヲス」ニ勅シ律例要録ヲ撰定セシメ法学ノ初歩ニ便ニセシメタリ之ヲ「ヂヨスケニヱ」インスチチユシヨン」ト云フナリ

加之法制上許多ノ疑問アリテ古代ヨリ討議シテ尚ホ未タ一定セサル者アリ帝之ヲ見テ深ク其ノ定議ナキヲ惜ミ自カラ五十定議ト題セル定断書ヲ作リ咸ク其ノ疑問ヲ解キ又タ第一編纂法制ノ完全ナラサルヲ知ルヤ直ニ「ツライボニヱ」ヲ拝シ改正德裁トシ第二編纂法例十二卷ヲ修メシメ交エルニ五十定議ヲ以テシ之ヲ名ケテ「リベチイーブリーシクシヨニス」ト云ヒ耶蘇紀元五百三十四年十一月之ヲ挙行シタリ

斯ノ如ク先代ノ法例ヲ修輯編纂シ以テ法制ヲ現時ニ整頓シタルノミナラス尚ホ將来ニ慮ル所アルヲ以テ帝更ニ詔ヲ下シ(国内ニ徧ク)曰ク凡ソ後界ニ在ツテ改定設置スヘキ法例ハ咸ク新律ノ式例ニ倣ヒ之ヲ公行スヘシト今マ按スルニ耶蘇降生五百三十五年ノ一月ヨリ五百

六十四年ノ十一月ニ至ルマテ凡ソ三十年ノ間其ノ定置シタル新律凡ソ壱百六十五類アリト云フ
右數十款ハ是レ羅馬律例沿革ノ畧史ナリ素ヨリ其ノ畧ト云フテ以テ敢テ安リニ盡セリト云ハスト雖モ学者若シ之ヲ玩味セハ必ス発明スル所アル可シ

第三項　慣習法ノ主義

慣習ノ法ハ輿論ナリ蓋シ其ノ恒久ノ取用ニ因テ終ニ法例律規ト為ル者ナリ

按スルニ其ノ開國ノ始メニ當テハ各土ノ民多ク立法ノ制度アルヲ知ラスト雖モ尚ホ其ノ交通ノ際ニ於テ多少ノ標準ヲ要スル者ナレハ常ニ衆好ノ帰着スル所ヲ取リ之ヲ一般ノ通例ト為シ之ヲ守ル者アリ是レ即チ慣習法ノ基ツク所ニシテ洋ノ東西ヲ問ハス各土皆ナ箇ノ類ノ法アル所以ナリ而シテ羅瑪慣習法ハ後世ノ所謂ル「ヂョスピ」ナリ

羅瑪ノ制慣習ヲ定認シテ法制ト為スニ四箇ノ條規アリ

一ニ曰ク必然其ノ法制タルヘキヲ知得シ以テ之ヲ創ムル者ハ非サレト慣習ノ法タルヲ得ヘシ

是ヲ以テ風習ノ基ク所之ヲ必須トスルノ實意ニ在ラスシテ唯リ偶然ノ事ニ出ル者ハ唯タ是レ一箇ノ流風

タルヲ以テ決シテ慣習ノ法タルヲ許サス

二ニ曰ク若干年月ノ間存在挙行セラル者ハ慣習ノ法タルヲ得ヘシ

按スルニ豫メ存在ノ年数ヲ定メ又タ挙行ノ度数ヲ畫一スルハ古今ノ至難トスル所ナレハ羅馬ノ制特ニ之法司ノ判官ニ委シ時ニ臨ンテ之ヲ判決セシメタリ

三ニ曰ク古今同一ノ有様ヲ以テ行ハレ嘗テ他ノ通習ト相ヒ撞着抵格セサル者ハ慣習ノ法タルヲ得ス

按スルニ一旦通習ト為リ久シク挙行セラル者ト雖モ後チ或ハ他ノ通習ヲ創メ之ヲ抵格スルアラハ既ニ是ノ時ヲ以テ廃棄セラルヘキ者ニシテ其ノ勢力ヲ將来ニ有スヘキ者ニ非ラサルナリ然リ而シテ羅馬ノ制慣習ノ基スル所實ニ偶然ニ出ルヲ明カニスヘケレハ饒トヒ相ヒ撞着スルモ亦尚ホ前習ヲ認メテ慣習ノ法ト為スヲ得ルナリ

四ニ曰ク縱トヒ必須ナリトスルノ實意ニ基クモ若シ謬誤ノ結果ナラシメハ其ノ風習ヲ認メテ法ト為スヲ許サス

是ヲ以テ第一規ノ如シト雖モ其ノ所基ノ實意ニシテ

實ニ謬誤ノ結果タラシメンニハ其ノ風習ヲ認メテ法制ト同視スルヲ許サヽルナリ

凡ソ慣習ノ法ト為ルヘキ者ハ大抵衆民自己ノ行為ニ起リ又タ或ハ法司判官ノ定断ト明法学士ノ持説トニ因テ生スル者ナリ

按スルニ之ヲ用ユルノ久シキ風習ノ終ニ人ニ交際ノ儀ヲ督スルニ至ル者アリ是レ之ヲ衆民自己ノ行為ニ起ル慣習法トハ云フナリ又タ第三頁ノ附註ニ所載スル羅瑪律例沿革畧史ニ云ヘル如ク羅瑪ノ制ニ於テ法司判官ノ定断ハ勿論又タ明法学士ノ持説ト雖モ往々之ヲ採ッテ法ト為スコトアリ蓋シ判官明法学士ノ如キハ法制ヲ通知スル器械トモ謂ツヘキ者ニシテ畢竟衆民ニ代リ法制ノ解説ヲ主トル者ナレハナリ

慣習ノ在存ヲ明カニスルニ二ツノ訣アリ曰ク人ニノ考察曰ク之ヲ表明スル所ノ證言而シテ法庭ニ在ツテ之ヲ證左スルノ制ハ全ク核情ノ有無ヲ證左スルノ制ト同一ナラサルナリ故ニ治罪法ニ於テ判官タル者ハ其ノ面前ニ在ツテ原被両告等ノ公然申シ立タル事實ニ非ラサレハ認メテ以テ其ノ核情ト做スヲ許サスト雖モ通習ニ至リテハ常ニ之ニ注意シ縱トヒ其ノ職掌上ニ於テ之ヲ充

タサヽルヲ得サルナリ

今マ本文下段ノ要ヲ撮メハ則チ曰ク核情ノ有無ハ必ス原被等ノ申立ヲ要スト雖モ風習ノ在存ニ至リテハ常ニ判官ノ注目ヲ要シ若シ原被等ノ申立ナキアラハ其ノ本分ニ於テ之ヲ充タサヽルヲ得サルナリ

慣習ノ法ハ有記法制ト同一ノ勢力ヲ有スル者ナリ故ニ新習ノ創始ニ因テ既置ノ法制ヲ改正廃棄スルヲ得ル猶ホ法制ノ新置ヲ以テ旧慣ヲ廃絶スルヲ得ルカ如シ

蓋シ制法ノ實力ヲ以テ将来新習ノ創始ヲ拒ムニ由ナケレハナリ

羅瑪律要上帙巻之一終

羅馬律要上帙卷之壱　小野梓纂譯附註

第二章　權理之細義及分類

第一項　權理ノ細義

主位ノ權理ハ勢力ナリ蓋シ客位ノ權理ニ由テ擧ケテ之ヲ人類ノ意中ニ付与スル者ナリ而シテ若シ積極カ或ハ消極ノ義務ヲ以テ之レニ配スルアラハ其ノ持主者ヲシテ自由ニ之ヲ仕用セシムルヲ得ンナリ

今マ退テ按スルニ本項ノ要旨ハ則チ權理ハ通義ニ由テ立着セラルヘキヲ說ク者ニシテ取

リモ直サス「コレリヅ外」ノ所謂ル無通義ハ無權
理ナリ而シテ下段ノ所謂ル積極ノ義務ハ則チ
特課ノ通義ニシテ特ニ某々ヲ賦課スル者ヲ云
ヒ其ノ所謂ル消極ノ義務ハ則チ互課ノ通義ニ
シテ自他互ヒニ相ヒ賦課スル者ヲ云フナリ今
マ之ヲ歐米ノ諸律書ニ考フルニ特課ノ通義ニ
由テ立看セラルヘキ者ハ称シテ特有ノ權理ト
云ヒ其ノ互課ノ通義ニ由ル者ハ各ケテ互有ノ
權理ト云フ又シ然リ此ニ特課ノ通義アラハ彼
シコニ特有ノ權理ヲ生シ彼シコニ互有ノ權理
アリテ此ニ互課ノ通義ヲ賦スヘキナリ

第四項　權理ノ各種

人々其ノ勢力ヲ以テ有形ノ諸物ヲ管理スルコト
アリ之レヲ管物ノ權理ト云フ
管物ノ權理ハ多クハ之レヲ自己所有ノ物類ニ充
タシ時或ヒハ之ヲ他人ヨリ借得セシ物類ニ充
タスコトアリ共ニ之ヲ人類ノ物類ヲ支配スル
ノ權理ナリト云フ
我輩ハ管物ノ各權ヲ條例シ読者ヲシテ之ヲ知
ラシムルハ甚タ大無益ノ事ニ非サルヲ信スル

ナリ故ニ今マ次ノ數款ヲ以テ其ノ大畧ヲ陳
叙シ讀者ノ注意ヲ鼓動セントス款スルナリ
第一「ドミニアム」ハ管物ノ全權ヲ有セシ人類ノ
称号ニシテ苟モ其ノ住地ヲ占ルモノハ自己專
攻ノ特權ヲ以テ其ノ所管ノ物類ヲ充用シ又タ
之ヲ尽用シ又タ之ヲ賜与シ又タ之ヲ賣去シ又
タ或ヒハ其ノ生産シ来ル所ロノ諸物ヲ所有ス
ルヲ得ルナリ今マ之ヲ有主ト譯填シ以テ持主
ト分別スヘシ
第二 持主ハ剌甸語ノ所謂「ポッセッシヨ」ヲ譯
填シタル者ニシテ元来有主ト其ノ性質ヲ殊ニ
シ我カ大日本ノ所謂ル當リチノ類ナリ蓋シ原
主ニシテ某ノ物類ヲ所有スト雖ヒ自カラ充用
セスシテ之ヲ他人ニ貸スコトアルニ際シ他人
ノ之ヲ借リ受ケ之ヲ所持スル者アリ羅馬ノ制
之ヲ名ツケテ持主ポッセッシヨト称ス故ニ持主ト
云ヘハ現時ニ物類ヲ手持スル者ノ称号ニシテ
物類ヲ所有スル者ト自カラ分別ナリ(時トシテ
ハ有主ノ持主ヲ兼ヌル者アリ)然シ此ニ今マ詳カ
ニ羅馬法学士ノ說ク所ヲ察スレハ「ポッセッシ

「ヨ」ハ独リ現時ニ物類ヲ所持スルノ權ヲ有スル者ノ謂ノミナラス又タ將来ニ之ヲ所持スヘキノ願望ヲ期スルヲ得ル者ヲ云フナリ故ニ持主タル者ハ畢竟有主タルノ持權ヲ要求スルノ權理ナシト雖ども其ノ實ハ有主ト同一ノ便益ヲ樂シミ有主ノ外ハ決シテ之ヲ干スヘカラサルナリ加之持主タル者ハ之ヲ持チスルノ久シキ終ニ一定ノ法度ヲ踏ミ該物ノ有主タルヲ得ルコトアリ

第三「サルビチユード」ハ茲ニ之ヲ隷屬ト譯シ一二ノ物類ヲ己レニ隷屬シ得ルノ權理ヲ云フナリ抑モ管物ノ權ニ幾多ノ種類アレハ之ヲ分截シテ彼レヲ甲ニ此レヲ乙ニ接与スルヲ得ヘシ譬ヘハ既ニ地上ノ歩行ヲ甲ニ許シ又タ同時ニ地下ノ堀鑿ヲ乙ニ許スカ如シ凡テ斯ノ類ノ權理ハ元ト「ドミニオム」ノ一片ニシテ時或ヒハ有主ヨリ之ヲ割ヒテ他人ニ与フルコトアル者ナリ按スルニ「サルビチユード」ニ二類アリ曰リ「サルビチユード。フリーデ」「ロム」曰リ「サルビチユート。ポルソ子ロム」是レナリ「サルビチユード。フ

リーデオロ山ハ他物ノ有主タル者ノ一二ノ不動物類ヲ已レニ隷屬スルノ權理ニシテ分ツテ二種トス一ニ曰ク步行乘車等ヲ以テ土地ヲ直役スル者ノ類二ニ曰ク家屋等ヲ建築シ土地ヲ間役スル者ノ類是レナリ「サルビチユード・ポルツ」ロ山ハ其ノ特人ニ授与シテ一二ノ動物或ヒハ不動物ヲ仕役セシムルノ權理ヲ云ヒ之レニ亦タ二種アリ曰ク他人ノ物類ヲ仕用シ其セテ其ノ利潤ヲ得ル者刺甸語ニテ之ヲ「エースプロリトス」ト云フ曰ク之ヲ仕用スルニ止リテ其ノ利潤ヲ得サル者刺甸語ニテ之ヲ「ユース」ト云フ

第四「エンフイテユシス」年々地子ヲ拂ヒ永久其ノ地ヲ有主ノ實權ヲ得ル者ヲ云フ

第五「シユポルフヒシス」年々地子ヲ拂ヒ地上ニ築作スルノ權ヲ得ル者ヲ云フ

第六質物元ニ抵當物ヲ管理スルノ權是ヲ管物ノ六種權理ト云ヒ其ノ之ヲ得失スルノ定例ハ我輩將サニ下帙ノ首章等ニ於テ明辨スルアルヘシ

又タ或ヒハ其ノ勢力ヲ用ヒテ某ノ特人ヲシテ某ノ特事ヲ行ハシメ以テ貨財ノ利潤ヲ要スルコトアリ之ヲ督催ノ權理トシフ

按スルニ督催ノ權理ハ則チ財主ノ權理地主ノ權理等ノ類ヲシテ總ヘテ貨財ノ利潤ヲ督促シ得ル ノ權理ヲシテフナリ

我輩ハ今ヲ又タ督責ノ權理ニ關シ左ノ數事ヲ陳叙シ讀者ノ參考ニ供セント欲スルナリ

督責ノ權理ヲ羅馬ニテ單ニ盡分トシヒ甲乙二者ノ取リ結ヒタル契約ト或ヒハ二者ノ間ニ生シタル損害トニ依テ起ル者トス故ニ我輩ハ先ツ契約ノ各種ヲ開列シ次テ損害ニ及ハント欲スルナリ

契約ニ四大別類アリテ第一ヲ無言ノ契約第二ヲ言上ノ契約第三ヲ書載ノ契約第四ヲ相投ノ契約トシフ

第一無言ノ契約ハ受托ノ品物ニ關シ預リ主ト預ケ手ノ間ニ起ル權義ヲ法制上ニ於テ契約ヨリ生スル者ト認メ之シヲ執行スル者ヲシヒト小分シテ四小別類トス一ニ曰ク「ユーチエオ」

則チ預リ主ハ預リ物ノ全數ヲ預ケ手ニ還スヘキノ分アル者ニ曰ク「コムモダト」則チ預リ主ハ預リ物ノ特品ヲ預ケ手ニ還スヘキノ分アル者譬ヘハ某甲ニシテ某乙ノ金裝自鳴鐘ヲ預リナハ他日某乙ニ還スニ同一ノ金裝自鳴鐘ヲ以テスヘキカ如シニ曰ク「デポジット」預リ主ハ預ケ手ニ對シ預リ物ヲ保護スヘキノ本分アル者四ニ曰ク「コグノス」質物トシテ之ヲ預リ置キ債主ニシテ金ヲ返セハ財主ハ之ヲ債主ニ返スヘキ分アル者ヲ云フ以上四種ハ特別ニ契約ノ語詞ヲ作ラスシテ法制上自カラ權義ノ相ヒ存スル者アリ故ニ無言ノ契約ト名ク

第二言上ノ契約ハ言語ヲ以テ契約シ去ル者ニシテ譬ヘハ甲問テ乙答ヘ凡テ辞ヲ以テ互ヒニ相ヒ約スル者ナリ

第三書載ノ契約ハ多ク貸借ノ時ニ用ユル者ニシテ其ノ例財主ハ其ノ手控ニ債主ノ名ト金貨箱箇ヲ渡スト書載シ債主モ亦タ其ノ手控ニ書載スルニ財主ノ名ト元ニ金貨箱箇ヲ受ケ取リタル由ヲ以テシ後日ノ證左ト為ヲ常トス

第四相投ノ契約ハ双方相ト投合シテ事ヲ行フ者ニシテ小分シテ四小類別トス一ニ曰ク賣買二ニ曰ク雇傭三ニ曰ク結社四ニ曰ク委任是レナリ

以上之ヲ契約ノ四類ト云ヒ諸盡分ノ權理多ク是レヨリ生ス而シテ其ノ損害ニ依テ發生スル者ハ別テ二類トス第一竊盜幽掠等ニ因テ生スル者ハ「エキスデリクトヲ」ト云ヒ一ニノ刑罰ヲ該當シテ其ノ本分ヲ盡サシム第二人ヲ危險ニ陷ルニ依テ發生スル者ハ「クオシイ。エキスデリクトヲ」ト云ヒ譬ヘハ穽ヲ道路ニ作リ因テ行人ヲ危險ニ陷ル者ノ如キ皆ナ贖罪セシメテ以テ其ノ本分ヲ盡サシムル者ヲ謂フナリ

既ニ前數款ニ叙スルカ如ク盡分ノ權理ハ大抵互結ノ契約カ或ヒハ損害ノ二者ニ因テ起ル者ナリト雖モ時或ヒハ契約ニモ非ラス又タ損害ニモ非ラスシテ之ヲ發生スルコトアリ羅馬ニテ之ヲ「クオシイ。エキス。コンツラクトス」ト云ヒ譬ヘハ一家ノ相續人ニシテ既ニ家財ノ相續ヲ承諾スル（先人死亡者ノ遺書ニ因テ他人ニ遺シタル）物品ハ皆ナ之レニ照シテ之ヲ給与スヘキ

ノ分アリテ他人モ亦タ之レニ照シテ之ヲ贈責スヘキノ權アルカ如キ散ラ契約ニ生セスト雖モ自カラ相ヒ撿束スルノ形アル者ヲ謂フナリ

前件二類ノ權理ヲ概称シテ財産ノ權理ト云ヒ皆ナ受授相續ヲ得ル者ナリ而シテ財産ノ相續ハ某ノ生者カ某ノ死者ニ代リ其ノ權理義務ヲ自用スルノ始メニシテ之ヲ相續ノ權理ト云フナリ

又タ別ニ家族ノ權理ナル者アリ連上ノ三權理ヲ兼セテ之ヲ人類ノ四大權理ト云フナリ

按スルニ家族ノ交通ナル者ハ骨肉愛敬ノ依ル所ニシテ畢竟德義ノ部曲ナレハ的切ニ之ヲ論スレハ法制ノ干渉ヲ得ヘカラサル者ナリ然リトモ之レカ爲メ財産ノ賊害相續等ノ際ニ當ツテ重大奇異ノ關係ヲ引キ起ス者多シ是レ勢ノ又タ法制ヲ以テ豫メ之ヲ理整セサルヲ得サル所以ナリ宜哉羅瑪人ノ既ニ家族ノ權理ヲ採ツテ之ヲ連上ノ三權ニ配スルコトヤ(家族ノ權理ニ関シ我輩將サニ第三節第一項ノ附註ニ於テ詳說スルコトアラレトス)

第三項　權理ノ所基

権理ハ大抵豫定ノ通規ニ基ヒシ時或ヒハ政廳ノ命令ヲ以テ殊別ニ之ヲ立着スルコトアリ

按スル権理ノ基ヒスル所ロハ多クハ是レ豫定ノ通規ニシテ譬ヘハ父死スレハ子其ノ財産ヲ相續スヘク遺書ヲ得シハ其ノ家財ヲ讓リ受クヘキ主ハ何人ハ何ト云フカ如シ而シテ其ノ政廳ノ命令ニ由テ殊別ニ立着セラルヘキ者ハ羅馬ニテ所ユラシンギユラリ卜云ヒ乃チ特別ノ道理ニ原ツキ某ノ特人某ノ特物某ノ特情ヲ限リ之ニ付与スルノ権理ヲ云フナリ

第三章　権理ノ主位即チ人類

第一節　人類ノ大意

第一項　人類ノ主義

法制上ノ主義ヲ以テ的切ニ人類ノ譯解ヲ下セハ則チ曰ク能ク権理ヲ保有シ得ル所ロノ現物也ト

蓋シ天然ヲ以テ之ヲ云ヘハ所在ノ生靈皆ナ能ク権理ヲ保有シ得ル者ニシテ物類ハ尝テ之ヲ保有スル能ハサルモノナリ然リトモ雖泰西一般ノ制或ヒハ生靈ニシテ其ノ権理ヲ保有スルヲ許サス或ヒハ生靈ニ非サル物類ト雖モ尚ホ其ノ

保有ヲ識認スルコトアリ故ニ法制上ニ在リテ
人類ノ大意ヲ解ケハ凡ソ能ク權理ヲ保有シ得
ルノ現物ト云ハサルヲ得サルナリ
人類ニ二種アリ曰ク天然曰ク法作
天然ノ人類ハ吾儕ノ如キ父母和合ノ縁ニ因テ
斯ノ現相ヲ地球上ニ顯ハス者ヲ云ヒ而シテ其
ノ法作ニ係ル者ハ法制ヲ以テ起リ法制ヲ以テ
絶ユル者ニシテ則チ社會ノ類是ナリ其ノ詳
カナルハ第三節第四節等ヲ以テ考フヘシ

第三節　天然ノ人類

第一項　天然人類ノ元始
　　先ニ之ヲ定擬スル通例

天然人類ノ在存ハ母ノ胎内ヨリ出生スルノ瞬間
ヲ以テ其ノ元始トシ嘗テ其ノ出産ノ有様ト其ノ
永存スル所ヲ問ハス
格スルニ近時泰西法学家ノ中間々其ノ能ク永
存シ得ルヤ否ヲ問フ者アリ以テ天然人物ノ在存ヲ
定認スルニ必用ナリトスル者アリト雖モ是シ
却テ其ノ宜シキヲ失スル者ノ如シ蓋シ母親ノ
胎腔ヨリ一出シ地上ニ落チ来ラハ饒トモ生産

ト同時刻ニ死去スルモ其ノ分免ハ終ニ掩フヘカラサレハナリ況ンヤ本来ノ性質ヲ以テ之ヲ論スレハ腰胜ノ始メヨリ在存ノ事ヲ證スヘキ者ヲヤ又タ移スルニ墺斯利亜孝魯伊亜和蘭陀英倫米洲合衆國等ノ律皆ナ羅瑪ノ古律ト其ノ制ヲ同フシ其ノ能ク生存シ得ルヤ否ヲ問ハサルハ共ニ是レ其ノ宜シキヲ得タル者ナリ既ニ前条ニ述ヘタル如ク凡ソ人類ハ生産ノ瞬間ニ於テ始メテ在存ノ現物タルヲ得ル者ナレハ其ノ以前ハ素ヨリ權理ノ主者タルヲ得サル者ナリ

然リト雖モ一旦地上ニ落チ来リ生存スルアクハ時或ヒハ腰胜ノ始メヨリ其ノ權理ヲ有スル者ト見做シ種々ノ便利ヲ人子タル者ニ与フルコトアルナリ

羅瑪ノ律ニ於テ既ニ前条ニ述ヘタル如ク出産ノ瞬間ヲ以テ人類在存ノ元始ナリト定認スル者ナレハ生産ノ以前ハ無キ物ト見做シ嘗テ諸種ノ權理ヲ与フルコトナシ然リト雖モ一旦生シ出テハ現世ニ生存セハ都テ腰胜ノ始メヨリ生存セル者ト許允シ種々ノ利益ヲ生子ニ与フル

コトアルナリ今マ按スルニ前条ニモ畧ヽ述ヘタル如ク腹胚ノ初メヨリ其ノ在存ヲ定認スヘキハ是レ素ヨリ真理ノ然ルヘキ者ニシテ終ニ之ヲ湮滅スヘカラサル者ナリ是レ羅瑪ノ古律中既ニ本條ノ下段ヲ大書シ特ニ其ノ便利ヲ生子ニ与フ心ヲ以テスナラス又タ今時ニ在ツテ泰西諸州ノ律例往々斯ノ成律ヲ襲用シ英國ノ如キハ特ニ之ヲ貴ヒ人身保護律ノ要點トスル所以ノモノナリ

第二項　天然人類ノ終着

天然ノ人類ハ死士ヲ以テ終着シ時或ヒハ之ヲ確知スル為メ種々ノ證跡ヲ要求スルコトアルナリ按スルニ今世泰西諸州ノ律例中往々死士ノ假定則ナル者アリテ凡ソ國民ニシテ家ヲ去ル何年其ノ間未タ嘗テ帰来セサルノミナラス又タ嘗テ其ノ起居ノ如何ヲ知ルヘカラサル者アラハ法制上之ヲ假想シテ死セル者ト見做シ諸々ノ處分ヲ為スコトアリ「コート、ナポレオン」第二「コート、フレデリツキ」ノ如キハ其ノ細密ヲ尽セル者ナリ我輩今マ羅瑪ノ律例ニ就テ這類ノ

法則ヲ求ルニ求タ一定ノ者アルヲ見ス其ノ一百年ノ後ニ至リテ足跡ノ分明ナラサル者ヲ想像シテ死亡者ト為スコトアルハ唯タ是レ其ノ通習ニシテ尝テ一定ノ法則ト為スヲ得サル者ノ如シ

羅馬ノ制度ノ有無ヲ論定スルカ為メ死亡ノ時刻ヲ證徴スルコトアリ又タ其ノ所在ヲ論定スルカ為メ甲乙二者ノ存亡ヲ證徴スルアリテ其ノ明瞭ナキ者ハ敢テ彼ヲ認メテ尚ホ生存スル者トセスヌ又タ此ヲ認メテ既ニ死亡スル者トセサルナリ

抑スルニ死亡ノ時刻ニ因リテ其ノ權理ヲ要求スルヲ得ルト得サルトハ民權ノ係ル所其ノ関渉甚タ鎖細ナラサルナリ故ニ之ヲ明細ニ徴據スルハ人民權理ヲ保護スルノ一大要點ニシテ又タ忽諸ニ付スヘキ者ニ非ラサルナリ然リ而シテ甲乙二者ノ存亡ヲ徴據スルモ亦タ此ノ如シ故ニ明々白々ノ證左アリテ充分ニ之ヲ信依スヘキ者ニ非ラサレハ敢テ彼ヲ認メテ尚ホ生存シ此ヲ認メテ既ニ死亡スト定断スルヲ得サルナリ又シ然リ若シ故ニ羅馬ノ制度ヲ這般ノ事情アルニ遇ヘ法官

ト雖モ亦タ敢テ猥リニ其ノ間ニ置喙セス毎ニ
之ヲ無定断ノ曲部ニ入ルヽモノナリ
前条ノ如シト雖モ若シ甲乙二者ノ一ニシテ既ニ
死亡セルニ疑ヒナリ又タ或ヒハ権理ヲ授与スル
者ノ本意ニ違戻スルアラハ敢テ證徴ノ典ヲ挙行
セサルヿナリ
本文ノ所謂ル権理ヲ授与スル者ハ作遺書者或
ヒハ亡夫ノ類ヲ云フナリ
一般ノ通規ハ前二条ノ如シト雖モ若シ同一ノ危
難ニ遇ヒ親子ノ倶ニ罹死スルアラハ成丁年期未
満ノ子ハ其ノ親ニ先キ立チ其ノ成丁満期以上ノ
子ハ其ノ後チニ死スル者ト想像シ其ノ死亡ノ前
後ヲ定断スルヲ規則トス但シ本則ハ特ニ親子變
死ノ一事ニ充タスヘキノミニシテ之ヲ他
ノ事實ニ充タスヘカラサルナリ
今ニ羅馬ノ制ヲ按スルニ満廿四歳ヲ以テ成丁
ノ期トス故ニ親子同時ニ變死スルアラハ其ノ
死亡ノ前後ヲ論定スルニ際シテハ一歳未満ノ者
ハ親ニ先ンシ満廿四歳以上ノ者ハ之レニ後シ
テ死亡スト想像シ諸ノ権義ヲ賦課スルヲ其ノ

制トスルナリ再タビ按スルニ泰西法学士ノ中
此ノ規則ヲ以テ他ノ事實ニ充タスヘシト切言
スル者アリト雖モ是レ大ヒナル謬誤ナルヘシ
蓋シ成丁年期満不満ヲ以テ變死ノ前後ヲ論擬ス
ルハ元ト是レ無證浮語ノ成果ニシテ真理ノ旨
ト違反ナキヲ保シ難キ者アレハナリ故ニ之
レヲ家庭ノ間ニ充用スルモ尚ホ且ツ其ノ嫌ヒ
多シ況ンヤ之ヲ他ノ事實ニ充用シ之ヲ普通ノ
常規ト為スニ於テオヤ若シ果シテ之ヲ用ヒナ
ハ權理賦与ノ多當ナラサル方サニ一場ノ混雑
ヲ人民ノ交際上ニ生スルコトアルヘシ我輩退
ヒテ泰西諸州ノ律例ヲ通覧スルニ孛魯細亜墺
斯土利亜英ニ和蘭ノ律例中本条ノ如キ制度アル
ルヲ見ス皆ナ徴證ノ典ヲ挙行シ而シテ後チ
之レヲ論定スル者ナリ唯リ「コードナポレオン」
ノ如キハ其ノ第七百二十条以下二三条中ニ記
載スル一種奇異ノ制度アリ是レ全ク支ノ豪雄
ナル總裁官カ羅馬ノ誤ヲ傳ヘテ佛人ヲ支配セ
シ者ナルカ實ニ該律ノ一疵ト云フヘキナリ英
国ノ律モ亦タ本条ノ如キ明文アルヲ見ス然

リトル丈妻俱ニ變死セハ妻ヲ認メテ前死ト為ス
ノ成律アルハ實ニ怪シムヘキナリ今ヤ羅馬ノ
無證據ヲ無述斷ノ曲部ニ置クノ制ヲ以テ之シ
ニ比スルニ其ノ勝ル万々ナルヲ覺エルナリ

第三節　人類ノ正位ヲ得ラルヘキ品等

第一項　住地　元ニ減權附リ賤奴

刺甸語ノ所謂ル「ステイト」ハ人々ノ他ニ相對ス
ルノ住地ヲ云ヒ即チ良民ノ賤奴ニ對シ國民ノ外
人ニ對シ自主人ノ屬隷人ニ對スルカ如シ
「ケピチス、ヂミニエシ」即チ減權ニ三等アリ曰ク

「メキシマ」(大)自由ノ權理ヲ失フ曰ク「ミノー」(中)國民
タルノ權理ヲ減ス曰ク「ミニマ」(小)父親ノ族ヲ削ル
是レナリ

按スルニ其ノ天性ヲ以テ之ヲ云ヘハ滿天下ノ
人皆ナ能ク其ノ權理ヲ所有シ得ル者ナルヘシ
ト雖ドモ而モ又タ人間交際ノ安康ヲ防護スル為
メ種々ノ法度ヲ設ケ之レヲ整頓セサルヲ得サ
ル者アリ故ニ交際上ニ就テ民權ノ如何ヲ顧ミ
レハ自カラ天性ノ素ト同一ナラサル者アリ羅
瑪律例ニ「ステトス」「ケピチス、ヂミニエシ」等ヲ

明辨スルモ亦タ蓋シ斯ノ原理ニ根起スルモノナルヘシ

我輩ハ今マ茲ニ「ステイト」「ケピチス、ゲミニユシヨ」ニ関セル制度ノ概畧ヲ陳叙シ読者ヲシテ其ノ意義ヲ明了ナラシメント欲スルヤリ読者若シ少ラク眼ヲ茲ニ富シ幸ヒニ過読スルアラハ独リ本文ノ主意ヲ明解シ得ルノ便利アルノミナラス又タ必ス羅瑪人生存ノ気風ヲ観察シ去ルノ一助タラシカ

「ステイト」ハ既ニ本文ニ言ヘル如ク各人ノ他ニ對スル位地ヲ云ヒ三箇ノ原素アリテ之ヲ成スルモノナリ三原素一ニ曰ク自主ノ権理ヲ有スニ曰ク国民タルノ権理ヲ有スニ曰ク家族タルノ権理ヲ有ス是レナリ是レヲ以テ法制上人類タルノ正位ヲ全フセント欲セハ必ス先ツ自由ノ良民タルノ地位ヲ得ルヲ要ス蓋シ羅瑪古代ノ説ニ憑テ之レヲ言ヘハ賤奴ハ元ト是レ無權ノ現物ニシテ畢竟物類ノ部曲ナレハ權理ノ主位ヲ充タスキノ道理ナケレハナリ斯ノ説ノ無證ノ妄語ナルハ読者ノ既ニ知ル所ロ

ナルヘシト雖ヒ我輩ハ今マ更ラニ下段ニ於テノ之ヲ痛論スルコトアルヘシ(然リト雖ヒ奴隷モ亦タ時トシテハ自由ノ良民ト為リ又タ或ヒハ羅馬國民タルノ權理ヲ有スルコトヲ得シハ敢テ自由ノ家ニ生シタル人ノミ蠶シ良民タルノ地位ヲ得セシムルト謂フヘカラサルナリ(其ノ詳ラカナルハ下段奴隷ノ款ヲ発セ考フヘシ)既ニ自由ノ良民タルヲ得シハ第ニ羅馬國民タルノ權理ヲ占ムルヲ以テ其ノ切要ナリト為ス按スルニ國民タルノ權理トハ本國ノ人民ト

吟ハシ一種殊特ノ權理ヲ所有スルノ榮譽ヲ云ヒ羅馬ニテハ古代國民ニ二別アリ曰ク「パツラス」曰ク「プレブス」是レナリ(古代羅馬ニ二種ノ人民アリシコトハ我輩既ニ詳カニ之ヲ羅馬律例沿革畧史中ニ説ク者アレハ読者既ニ之ヲ味フナルヘシ故ニ今マ其ノ細故ヲ贅セサルナリ)然リ而シテ苟モ其ノ民(其純ヲ目シテ蠻地ト稱シ)ヲ名ケテ夷民ト吟ヒ本ヨリ人民ト相ヒ分別スルコト猶ホ旧時我カ日本ニ於テ泰西人ヲ夷狄ト唱ヘ泰西諸州ヲ夷國ト称セシカ如シ故ニ古代ニ在リテハ國民ノ称ヲ

以テ蠻夷ノ字ニ配對シ来レリト見ヘタリ然リ
ト雖ヒ羅瑪国人文ノ化漸ク歐洲西北部ニ波及
シ其ノ部人續々羅瑪ニ来リ相ヒ交通貿易スル
ニ及ンテ勢ヒ之ヲ擯斥シテ蠻夷ト呼做スヲ得サ
ルナリ是レニ於テカ外邦人ノ称謂起リ本国人
ノ名目ニ配對セリ是ヲ以テ當年ヨリシテ以后
国民ト称スル者ハ皆ナ是レ外人ニ對頭スルノ
称謂警禁ナリト知ル〈ヘシ蓋シ當年ニ在リテハ
外人ト毎ニ「ヂヨスゼヒシヤ」(通法)ヲ以テ諸ノ
訴訟犯罪ヲ懲治セラレ曾ツテ「ヂヨス・クワイリ
シヤ」(羅瑪ノ内国法)ヲ以テ之ヲ論擬スルヲ要
求スルコト能ハサルナリ夫レ然リ試ニ當
時ニ溯リ内外人民ノ權理ヲ論スレハ其ノ相ヒ
分別スルコト更ラニ著シキ者アルナリ然リト雖ヒ
羅瑪人ノ一旦意太利ヲ征服シ該土ノ人民ニ
許允スルニ諸種ノ權理ヲ以テスルニ及テ内外人
交通ノ際自カラ同一權理ノ端ヲ創メ踵ヒテ歐
洲西北部ヲ全有シ該部ノ人民ヲ新屬セシメテ
ヨリ以来僑寄ノ外人視セシ者ハ今マ皆ナ新附
ノ羅瑪人トナリ自カラ内外ノ差別ヲ要セサル

ニ至シリ是ニ於テカ漸ヤリ同一権理ノ實ヲ成
果シ終ニ帝「カルカ巳」ノ時ニ及ヒテ新旧ヲ論セ
ス總ヘテ自由ノ権理ヲ占ムル屬民ハ皆ナ羅瑪
国民タルノ榮譽ヲ有スト公告セシムルニ至シ
リ我輩ハ今マ因ニ新勝ノ始メニ當ツテ羅瑪人
ノ意太利人ニ許允シタル権理ノ種類ヲ數ヘ擧
ケ読者參考ノ一助トスヘシ一ニ曰リ「リップレジ
オム」投票ノ権理ヲ云フ二ニ曰リ「オノレス」官牧
タルヲ得ルノ権理ヲ云フ三ニ曰リ「コンニュビ
オム」婚姻娶[illegible]ノ自由ヲ云フ四ニ曰リ「コムメル
シオム」貿易ノ自由并ニ財産所有ノ権及ヒ遺書
受授ノ権ヲ云フ五ニ曰リ「ダヨスライチノム」六ニ
曰リ「ダヨスイタリコム」(倶ニ羅瑪律例沿革畧史
ノ款中ニ詳カナリ)是レナリ
既ニ前數款ヲ以テ「スティトム」ノニ大原素ナル自由
ノ権理ト国民タルノ権理トヲ説キアレハ我輩
ノ今マ本款ヲ以テ相ヒ干スヘキモノハ唯リ家
庭ノ権理アルノミナリ我輩因テ退ヒテ羅瑪人
家庭ノ有様ヲ顧ミ其ノ眷族相依ノ制如何ナル
カヲ案スルニ實ニ天然ノ素ニ因ラスシテ寧ロ

多ク人作ノ文ニ依ルモノナルヲ見出シタリ
蓋シ羅馬ノ制ニ於テ一家ノ眷族ヲ檢束スルノ
條規ハ其ノ血脈ノ如何ニ在ラスシテ却テ法
制ヲ以テ所定スル家人相對ノ地位ニ依レハナ
リ我輩ハ今マ讀者ヲシテ上來ノ意味ヲ明ラナ
ラシメント欲シ「パトルフヨミリアス」以下ノ數
事ヲ列シ一一之ヲ解說セント欲スルナリ
「パトルフヨミリアス」ハ茲ニ家長ト譯スルモノ
ニシテ一家ノ首長タル者ナリ抑モ家長ハ「エユ
イヂユリス」即チ自主ノ權（「エユイヂユリス」ハ元
ト自己ノ意想ニ因テ專ラニ諸事ヲ執行スルノ
權ヲカフ今マ自主ノ權ト譯填スルハ其ノ簡約
ヲ取ルノミ讀者幸ニ之ヲ領了シ前款ノ自由ト
相ト混スルコト勿レ）ヲ得ル者ナレハ總テ其ノ
眷族ヲ己レノ配下ニ置キ眷族ハ常ニ之レニ屬
隷スル者ナリ故ニ其ノ子其ノ女若シクハ其ノ
妻（羅馬ノ制法律上人ノ妻タル者ヲ認メテ其ノ
女ト見做スコトアルハ一種奇怪ノ制度ナレハ
必ス本邦ニ切要ナラサルヘシ故ニ我輩ハ其ノ
細故ヲ喋々セス總テ殺畧ニ從フ）皆ナ家長ノ制

御ヲ受ケ其ノ意想ヲ以テ直接ニ諸事ヲ執行ス
ルヲ得サル者ナリ然リ而シテ其ノ女児ハ一旦
外ニ出嫁セハ娶聘ノ即日ヨリ其ノ夫ヲ家長ト
シ之レニ服事シ其ノ父(家長)ノ家眷タルヲ脱ス
ト雖モ其ノ男児ハ常ニ其ノ父ニ服事シ若シ父
ニシテ死セサレハ已レ終身其ノ配下ニ在リテ
嘗テ自主ノ権ヲ有スルコトナキノミナラス已
レノ子女(孫女ニシテ外ニ帰嫁シ祖父(家長)ノ支
配ヲ離レ夫ノ家眷トナルハ猶ホ女児ニ於ルカ
如シ)モ亦タ皆ナ其ノ配下ニ在ル者ナリ夫レ然
リ父在セハ子ハ自主ノ権ナリ祖父在セハ孫モ
亦タ其ノ支配ヲ受クル者ナリ(茲ニ子トハ孫
トハ云フハ未嫁ノ女児ト未嫁ノ孫女トヲ兼セ云
フナリ)以上陳叙スル所ノ者ヲ以テ之ヲ味フレ
ハ男側ノ子孫ハ常ニ同一ノ家長ニ属隷シ之レ
ニ支配セラルヽ者ナルヲヲ知スヘシ是レ我輩
ノ嚮キニ羅馬人ノ眷族相依ノ制ハ天然ノ素ニ
因ラスシテ寧ロ多クノ人作ノ文ニ依ルト謂フ所
以ナリ
然リ之レニ属隷スト雖モ一旦家長ニシテ死ス

スルヲラハ其ノ男児タル者ハ皆ナ各々自カラ家長ノ位地ヲ占メ自主ノ権ヲ有シ其ノ男側ノ子孫ヲ支配スルヲ得ルコト猶ホ父ノ自己ニ於ルカ如シ而シテ其ノ女児タル者モ亦タ若シ未タ他人ニ嫁セスシテ家居スルアラハ家長死亡ノ即時ニ於テ自主ノ権理ヲ占ムルヲ得又他日夫ニ帰嫁スル迄ハ之ヲ所有スルヲ得ル者ナリトス

羅馬人家長ノ制大畧上来ノ如シ若シ夫ノ家屬ノ位地ノ如キハ我輩方サニ本款ヲ以テ之ヲ説キ去ルヘシ今マ羅馬ノ制ヲ按スルニ凡ソ家長ノ下ニ屬シ一家ノ子孫タル者ハ国事ノ権(英語ノ所謂ル同ブリク、ライト)ヲ譯(填ス)アリト雖モ曾テ民事ノ権(英語ノ所謂ル「プライベイト、ライト」ヲ譯(填ス)ヲ占ムルコトヲ許サヽルナリ故ニ一家ノ子孫タル者ハ投票ノ権国民タルノ権官牧タルノ権婚姻ノ自由及ニ貿易ノ自由ヲ全有スト雖モ曾テ財産ヲ所有スルノ権ヲ有セス既ニ之ヲ有セス故ニ又タ曾テ之ヲ賣買受授スルノ権理ナキナリ此ノ制ヤ羅馬ノ晩年ニ至リテ

漸ク弛リ後ニ兵役ニ服スル者ハ縦トヒ家屬ノ地位ニ立チ家長ノ支配ヲ受クル者ト雖モ某々ノ財産(一定ノ規條アリ)ヲ所有シ又タ之ヲ賣買受授スルヲ得ヘシト公告スルニ至レリ

父(家長)ノ死亡スルニ非ラサレハ一家ノ男兒タル者ハ常ニ家屬ノ地位ニ居リテ曾テ自主ノ權ヲ有スルコト能ハサルハ既ニ前ニ款中ニ說キシ如クナリト雖モ時或ヒハ「メンシペシ太」ノ仕方ヲ以テ家長ノ覊軛ヲ脫却シ一箇ノ自主人タルヲ得ルコトアリ抑モ「メンシペシ太」トハ元ト是レ国民タルノ權理ヲ有スル成丁滿期ノ者五名以上ヲ證人トシ財産等ノ賣買ヲ確證セシモノナルガ又タ時トシテハ其ノ子ヲ自主人タラシムルノ目的ヲ以テ之ヲ用ヒテ其ノ子ヲ他人ニ賣リ渡スコトアリ此ノ時ニ當リテハ賣買ハ唯タ其ノ声ノミニシテ決シテ其ノ値價ヲ收納スル等ノ事アルコトナシ故ニ買主モ亦タ唯タ其ノ虛名ニシテ其ノ實人子ヲシテ自主人タラシムルノ禮式ヲ執行スルノミ毎スルニ十二銅表(羅馬律例沿革畧史中ニ詳カナリ)ニ云ヘルコ

トアリ曰リ化ノ人子タル者ニシテ「メンシペシ
丈」ノ法ヲ以テ父ノ賣ル所トナル。若シ三回ニ及
ヒ自カラ自主人タルヲ得ベシト蓋シ是レ之
レヲ謂フナリ我輩ハ今マ因ニ羅瑪人養子ノ制
ヲ畧叙シ読者ノ注意ヲ鼓動セント欲スルナリ
案スルニ甲家ノ家爵乃チ子孫タル者ニシテ若
シ乙家ノ家属タランコトヲ好ミ或ヒハ其ノ家
属タラサルヲ得サルコトアレハ甲家ノ家長其
ノ賣チト為リ乙家ノ家長其ノ買主ト為リ「メン
シペシ丈」ノ法ヲ以テ假ニ其ノ家属ヲ賣買スル
コトアリ之ヲ羅瑪ノ「アドフテイシヨン」ノ法即
チ養子ノ制ナリトス(按スルニ泰西「アドフテイ
シヨン」ノ法ハ本来養子ノ制ト同一ナラサ
ルモノアリト雖ドモ読者ノ了解ヲ容易ナラシメ
シカ為メ今マ養子ノ字ヲ以テ「アドフツ」ノ英語
ヲ譯填ス読者之ヲ了セヨ)我輩今マ再タヒ按ス
ルニ羅瑪古代ノ制度中ニ既ニ自主ノ權理ヲ有
スル者ニシテ若シ他家ニ養子タラント欲セハ
必ス「コミシヤ。キユリアタ」(羅瑪律例沿革畧史ニ
詳カナリ)ノ投票ヲ要スト云ヘルモノアリト雖

ヒ後世ハ之レヲ廢棄セシモノナルハ「デヨスチニエン。イレスケ」トユヒシヨシ」ヲ以テ之レヲ確信スルニ足ルモノアリ故ニ我輩今マ敢テ之ヲ喋々セサルナリ

讀レテ茲ニ至レハ讀者ハ附註ノ長キヲ厭ヒ一欠以テ本文ノ速ニ眼中ニ入レコトヲ待候スルナルヘシ然リト雖ヒ今マ若シ茲ニ左ノ數款ヲ陳叙セサレハ我輩附註者ノ心腦ヲ滿足スルコト能ハサルナリ故ニ讀者ノ厭不如何ヲ問ハス之ヲ陳叙スルコト方サニ左ノ如シ讀者ノ中若シ之ヲ厭フ者アラハ幸ニ之ヲ宥恕シ既厭ノ眼光ヲ一閑シテ再タヒ之ヲ進讀スルアレ我輩謹ンテ其ノ大無益ニ非サルヲ保領スヘシ

既ニ讀者ノ宥恕ヲ請ヒ了レハ我輩ハ遲回シテ其ノ陳叙ヲ延ハスヘカラス宜シク勇進シテ之ヲ闡說スヘキナリ夫レ然リ我輩ハ第一ニ後見人(ケエーター)ヒ譯塡ス其ノ「キユレイタート」異ナル所ロノ者ハ方サニ下段「キユレイタート」ノ条ニ於テ詳說スルアルヘシ)ト孤兒ノ交通ヲ陳說シ去ラント欲スルナリ抑スルニ既ニ自主ノ權

理ヲ保有スト雖モ間々其ノ全權ヲ充用スルコト能ハサル者アリ譬ヘハ無父ノ孩嬰ノ如キ自カラ自主人タルニ相違ナシト雖モ未タ成長ノ域ニ至ラサルヲ以テ能ク其ノ權理ヲ充用スルヲ得サルカ如キ是レナリ此ノ時ニ當リテ丈ノ孩嬰ヲシテ他ノ成人ト同等ノ交際ヲ得セシムル果シテ何ノ道ニ依ルカ蓋シ後見人ノ職ヲ置キ之ヲシテ之ヲ保傳セシムルアルノミ是レ後見人ト孤児ノ交通ヲ創スルノ原始ニシテ羅馬ノ制凡テ後見人ノ地位ニ居ル者ハ常ニ孤児ノ父ハサルヲ補綴シ其ノ身上ト其ノ財産ヲ保護スルノ責ヲ任ス再タヒ按スルニ後見人ノ職ヲ置クコト唯リ孤独ノ孩嬰ノミニ限ラス時或ヒハ自主ノ權理ヲ保有セル婦女ノ為ニ之ヲ要スルコトアリ蓋シ未嫁ノ女児ニシテ其ノ家長死亡セハ自主ノ權理ヲ保有スルヲ得ヘシト雖モ羅馬ノ制之レニ許スニ法制上ノ諸取引ヲ為スコトヲ以テセス故ニ是等ノ婦人ニシテ法廷等ニ事アルニ際セハ必ス後見人ヲ置キ之レカ取リ引キヲ為サシメサルヲ得サルナリ是レ自主

ノ權理ヲ保有セル婦女ノ爲ナニ後見人ヲ要スル所以ナリ我輩ハ因ニ「キユレイタル」ノ事ヲ記シ讀者參考ノ一助トスヘシ抑モ「キユレイタル」ハ後見人ノ一種ナリト雖モ之ヲ「チユータル」ニ比スレハ自カラ輕重アルナリ蓋シ「チユータル」ハ孤兒ノ身上ト財産トヲ兼セテ保護スル人ノ責アリト雖モ「キユーレイタル」ハ唯リ其ノ財産ヲ監督スルニ止マレハナリ是レヲ以テ既成ノ人ニシテ尚ホ財産濫用ノ懼レアラハ(狂顛ヲ患フル人猥リニ華奢驕慢ナルモノ或ヒハ滿廿五歳以下ノ者等ヲ云フ)「キユーレイタル」ヲ置ヒテ之ヲ後見セシムルヲ恒例トスルナリ

前段

ヒテ叙記スヘキ者ハ「アグ子チ」ト「コグ子チ」トナリト雖モ斯ノ二条ハ我輩將サニ本節ノ第六項ヲ以テ專ラニ陳叙スルコトアルヘケレハ今マ之ヲ茲ニ略シ直ニ妻ノ事ヲ說キ去ルヘシ

羅瑪ノ制ヲ按スルニ凡リ夫ノ妻トナル者ハ常ニ夫ノ手中(刺甸語ノ所謂ル「メノス」ヲ譯塡ス)ニ在ルモノト想像シ諸事皆ナ夫ノ支配ヲ受クルヲ其ノ恒ナリトスルカ如シ然リ而シテ斯ノ風

習ハ唯リ多クハ「パッリシエル」ノ間々行ハレ「プレビエン」ノ如キハ希レニ之ヲ識認セシ者ノ如シ

我輩ハ今マ前言ノ臆測ニ非ラサルヲ證スル為メニ試ミニ羅瑪人婚姻ノ有様ヲ引クヘシ因テ退ヒテ羅瑪人婚姻ノ制果シテ如何ナルカヲ考フルニ古代ハ二民(パッリシエル)ト「プレビエン」トヲ云フノ間ニ別様ノ禮式アリシト見エタリ蓋シ「パッリシエル」ハ「コンファエルエイシオ」(婚姻礼式)ノ一種其ノ詳カナルハ本邦ニ切要ナラサルヲ以テ之ヲ畧シテ叙陳セス)ノ式ヲ行ヒ夫婚ハ直ニ其ノ妻ヲ已レノ手中ニ治シ(所謂ル「メノ区」其ノ進退擅ニ一ニ已レノ命ニ之レ從ハシムト雖モ「プレビエン」ノ如キハ「コーエンプシオ」ト「ユーソス」ノ二様ヲ以テ夫婦ノ交通ヲ始ムルモノナレハ其間自カラ分別アレハナリ「コーエンプシオ」ハ夫婚タル者ノ其ノ妻ヲ婦翁ヨリ買ヒ受ケ之ヲ妻視スルノ例ヲ云ヒ「ユーソス」ハ婦女ニシテ全一周歳ノ間ヒタメ夫ト同居スレハ其ノ夫タル者ハ之ヲ妻視シテ妨ケナキ者(但シ三箇夜以上夫ノ側ヲ離居スルコトアレハ夫ハ之ヲ

妻視スルノ権ナキヲ制ト云ヒ俱ニ其ノ妻ヲ己レノ治下ニ置クモノナリ

然カリ其ノ妻ヲ己レノ治下ニ置クト雖モ「メノ」ノ如キ夫婦抑壓ノ甚シキヲ極メタル妻婦モ亦タ少シリ夫婦ト相ヒ對頭スルヲ得ル時アルナリ

昔スルニ二民一致(其ノ詳カナラハ羅瑪律例沿革畧史中ニ就テ考フヘシ)ノ後チハ羅瑪人專ラニ斯ノ二制ヲ用ヒ「メノス」ノ風ハ羅瑪建國ノ晩年ニ及ヒテ全然其ノ跡ヲ絶チシモノヽゴトシ

上来ニ記スル三箇ノ婚式ヲ行ハスシテ男女同居スルアラハ之ヲ名ケテ「コンキユバイ子イ」(聘妾)トシ其ノ間ニ生シタルモノハ無父ノ子ト見做スヲ羅瑪ノ古制トセリ然リト雖モ帝「コンスタンチ」ノ後チハ左ノ一令ヲ著シ無父ノ子女ヲシテ有父ノ子女タラシムルノ餘地ヲ借セリ其ノ令ニ曰ク凡ソ生産ノ後チタリト雖モ若シ其ノ母ニシテ婚姻ノ礼式ヲ踐ミ其ノ夫ノ妻ト為ルアラハ其ノ子女ハ生産ノ始メヨリ有父ノ者ト見做ヲ得ヘシト

又タ羅馬ノ制ヲ按スルニ凡ソ相ヒ婚セサル男女ノ間ニ生ルヽ子女ハ其ノ住地ヲ論スルニ當リテ母ニ其ノ母ニ從フ故ニ母ニシテ賤奴ナレハ子女モ亦タ賤奴ト為リ若シ母ニシテ良民タレハ其ノ子女モ亦タ良民タルヲ得ルヿ蓋シ斯等ノ子女ハ常ニ無父ノ者ト見做スノ制ナレハ其ノ父ノ位地ヲ問フニ由ナケレハナリ

我邦ハ前款ヲ以テ「ステイトス」ニ関シタル制度ノ大畧ヲ叙シ了レハ方サニ本款ヲ以テ「ダミニユシヨンケピチス」ニ関シ少シク説クモノアルヘシ

「ステイトス」ノ全権ヲ充用スルヲ得ルヲ剌甸語ニテ「ケプツ」トシフヲ以テ之ノ三大權理ヲ半失スルカ或ヒハ全失スルアリハ之レヲ名ケテ「ダミニユシヨンケピチス」トシヒ「ケプツ」ヲ減少スルヲ表スルナリ

既ニ本文ニ言ヘル如ク減權ニ大中小三箇ノ等級アリ其ノ大ナル者ハ剌甸語ニテ「ダミニユシヨンケピチスメキシマ」トシヒ敵ニ捕虜セラレ或ヒハ大衆ノ刑ニ処セラレ其ノ自由ノ權理ヲ

失シ国民タル ノ権理ト家族タル ノ権理トヲ兼
セテ失セスル者ヲ云フナリ其ノ中ナル者ハ即
チ「ダミエレヨケビチスミノ」ニシテ国民タルノ
権理ト家族タルノ権理ヲ兼セスル者ヲ云フナ
リ(但シ自由ノ権理ハ尚ホ保有スルヲ得ル)其ノ
小ナル者ハ之ヲ「ダミニエレヨケビチスミニ」
ト云ヒ又「シスペシ」ノ法ヲ以テ自主人タル者
或ヒハ他家ノ養子ト為ル者等ニシテノ父親ノ族
籍ヲ削ル如キ是レナリ(但シ尚ホ自由ト国民ノ
二権ヲ保有スルヲ得ル)古代ハ父親ノ族籍

ヲ削ラル ハ「チヨスサクラ」(法教ノ特権
ヲ云フ者ナリトハ其ノ本邦ニ切要ナラサルヲ
以テ之レモ亦タ墨ニ従フヲ失セスルコトアレ
ハ削族ハ減権ノ一部ヲ成スルコトアリシト雖
モ二民一致ノ後ハ法教ノ特権ニ依テ人々ノ
地位ヲ上下スルコトナケレハ其ノ實後世ハ削
族ヲ以テ減権ノ一部ト為スヘカラサルナリ
賤奴ハ物類ニ属スルヲ以テ諸種ノ権理ヲ有スル
ニ由テ然リト雖モ時或ヒハ「メニエミッシヨン」
(賤奴ヲシテノ自由ノ民タラシムルノ手續)ヲ以テ自

自由民タルヲ得ヘク又タ羅馬国民タルヲ得ヘシ
賤奴ニ二種アリ曰リ生レナカラニシテ賤シキ
者曰リ新ニ賤奴ト為シ者其ノ生レナカラニシ
テ賤奴タル者ハ生母ノ賤奴タルニ傷リ其ノ新
ニ賤奴ト為ル者ハ捕虜ト賣身(自由人ノ満二十
歳以上ノ者ニシテ其ノ身ヲ賣リ自カラ其ノ價
ヲ受ル者)トニ傷ル而シテ之ヲシテ自由ノ民タ
ラシムルノ手續ハ特主ノ好意ニ依テ之ヲ行リ
トスルニ上申スルヨリシテ以下數樣アリト雖
モ皆ナ本邦ノ今日ニ切要ナラサル者ノミナレハ
我輩ハ無益ニ之ヲ陳叙シテ徒ラニ読者ノ煩擾
ヲ致スヲ欲セサルナリ故ニ徳テ之ヲ省畧シ唯
タ茲ニ賤奴ノ人世ニ有害アルヲ畧論シ此ノ巻
ヲ終フヘシ
世人ノ賤奴ノ有害ヲ説ク者ヲ見ルニ往々人類
ハ同等ナリノ理由ヲ引證シ其ノ人間交際ニ大
害アルヲ嚣々スル者ノ如シ我輩ハ素ヨリ斯ノ
道理アル非點ニ同然スル所ナシト雖モ今ヨ試
ミニ賤奴ノ苦役ヲシテ人類同等ノ理由ニ背リ
コトナシト想像シ更ラニ一歩ヲ進メテ之ヲ考

フルニ尚ホ別ニ一大害點アリテ斯ノ醜風ヲ去ニ存セシムルノ大不利ヲ明證シ得ルナリ

何ヲカ尚ホ別ニ一大害點アリトスル歟曰ク賤奴ノ苦役ハ真利ノ大旨ニ戻ルモノ二點アシハナリ故ニ饒ト他ニ非點ナカラシムルモ我輩ハ斯ノ二點ヲ以テ賤奴苦役ノ非理ヲ痛言スルニ富強ナル證左ナリト為スニ足ルヲ信憑スルナリ

賤奴ノ苦役ハ何ヲ以テカ真利ノ大旨ニ戻ルモノニ點アリト為スカ曰ク寡數ノ樂ニシテ多數ノ苦アリ一ナリ曰ク富有ヲ減ニ随フテ國力ヲ殺クモノアリ二ナリ

夫レ歡樂ノ多クシテ苦痛ノ少ナキハ利益ノ所存ナリ故ニ真利ノ旨ヲ貴フ者ハ毎ニ數人ノ苦ヲ以テ一人ノ樂ニ更ヘス數人ノ樂ヲ以テ一人ノ苦ヲ顧ミサル者アルナリ今ヤ試ニ賤奴ノ主人ニ於ル所ノ有様ヲ見ルニ我輩ハ唯タ其ノ一人ノ樂ヲ以テ數人ノ苦ヲ顧ミサル者ナルヲ信スルナリ蓋シ人類ハ自治ヲ好ミ他治ヲ悪ムモノニシテ苟モ其ノ身ヲ箱制セラレ少シク自

治スルコト能ハサシハ其ノ不幸實ニ言フヘカラサルナリ況ヤ賤奴ノ如キハ進退擧止一ニ其ノ主人ノ意ニ之シ從ヒ一行一為皆ナ主人ノ心外ニ出ルコト能ハサシハ其ノ苦痛無量何等ノ度級ニ昇上スルカ我輩容易ニ明言シ得サルナリ然リ而シテ我輩今マ一回首ヲ轉シ賤奴ヲ仕役スルニ因テ主人ノ所得スル歡樂ハ何等ノ利益ヲ世上ニ公ニスルカ察スルニ下段ニ記スル如ク其苦役ハ富有ノ減少ヲ致スヘキノ憤慨アレハ我輩ハ切リニ其ノ世ヲ利スルノ僅々ナルハ愚カ都テ世ヲ害スルノ巨大ナルヲ信スルニ餘リアルナリ夫然リ主奴ヲシテ同數タラシメ一主一奴ト一定スルモ尚ホ且ツ主ノ得(私)ヲ奴ヲ奴ノ失(公)ヲ償フ能ハス況ヤ一人ノ主ニシテ數人ノ奴ヲ有スルハ古代來ノ實際ヲ以テ之ヲ徴證スルニ足シ一人ノ歡樂ニシテ數人ノ苦痛ナル明白ナル事ヲ知ツテ尚ホ且リ之ヲ存セシ是歟

ス是シ一人ノ樂ミヲ以テ數人ノ苦ヲ顧ミサル者ニ非ラスヤ能リ一人樂ヲ以テ數人ノ苦ヲ忘ル是シ真利ノ大旨ニ戻ル所以ナリ

旦ツ丈シ已レノ為メニスル寄ニシテ人ノ為メニスル疎ナルハ人情ノ常ニシテ彼我無別ノ地ニ至ルハ道德ノ最上位ヲ占ムル者ニ非サレハ能スルヲ得サル者ナリ丈シ然リ賤奴ノ如ク常ニ主人ノ權中ニ帰シ其ノ所業ノ成業ヲシテ咸リ主人ノ手裏ニ落チシムル者アラハ其ノ力役某シテ如何ソヤ惟フニ其ノ實他人ノ為メニカ役スル[illegible]ヲ賤奴タル者ハ少ス人情ノ常ニ據リ通例ニ其ノカヲ出シ當坐ノ責ヲ防クノナル人シ故ニ若シ成業ヲ全ウスルノ術ヲ以テノ之ヲ引誘スルアラハ尚ホ幾分ノ餘力アルヲ以テ賤奴ハ進ンテ之ヲ出シ其ノ成業ヲ取ルナルヘシ我輩ハ實ニ米洲南部ノ黒奴ニ於テ之ヲ見ルナリ叙シテ茲ニ至リ徐ニ之ヲ察スレハ賤奴ノ苦役ハ勞力ノ餘分ヲ抑ヘテ之ヲ無用ノ地ニ棄ツル者ナルヲ知ル吁々揚クヘキノ勞力ヲ揚ケスシテ却テ之ヲ抑エルアラハ是レ富有ヲ圖中ニ投シテ之ヲ人間ニ減省スル者ナリ既ニ富有ヲ減省スルニ違ハサルノ證左タラハ其ノ國力ヲ殺削スルノ一大怪事ナルヤ又タ多論ヲ

用トサルナリ蓋シ国力ノ強弱ハ一ニ富有ノ進退ニ攫リ国家ノ富強ハ主ヨリ相ト待ツモノナシハナリ又シ然リ賤奴ノ苦役ハ国力ヲ弱メル者ナリ今ヤ国力ヲ防ムルノ害ヲ以テ之ヲ賤奴ノ苦役ニ依テ主人ノ得ル所ロノ利ニ較スルニ其ノ軽重三尺ノ童子モ尚ホ且ツ之ヲ辨知スルヲ得ルナリ

既ニ這ノ二大點アリテ又タ那ノ交際ノ不便アラハ誰シカ賤奴ノ苦役ヲ指シテ至當ナル所為ト許サンヤ決シテ其ノ許スヘカラサルヲ明知スヘキナリ

我輩ハ右ノ如ク賤奴苦役ノ害ヲ畧叙シ其ノ未句ニ至シハ忽チ無限ノ感慨ヲ起シ本邦ノ士族（秦藩以前ヲ云フ）諸君ノ為メニ數滴ノ紅涙ヲ流シタリ惟フニ秦藩ノ前ニ當リテ士族諸君ハ諸大小名臣屬タルヲ以テ毎ニ主人ノ手下ニ隷シ其ノ實賤奴ノ性質ヲ寓セシ者ナンヘシ試ニ其ノ證左ヲ擧ンニ士族諸君ノ生命ハ其ノ主人ニ托シタルモノニシテ其ノ身躰ノ運行ニ至ルマテ皆ナ主人ノ意ヲ伺ヒシ者ニ非ラスヤ平

民亦タ其ノ實賤奴ニ類セレト雖モ婚姻ノ自由
アリテ身躰運行ノ妨ケナキハ稍ヽ士族諸君ニ
勝レシ一例タリ故ニ我カ
明治文武皇帝ノ即位ニ當リテ廢ノ大號令ヲ下
シ主従ノ分限ヲ一解シ給フニ非ラサレハ安ン
ソ知ン今日自由ヲ占ムル士族諸君ハ却テ是レ
羅瑪等無權ノ賤奴ト相ヒ伯仲スルノ地位ニ留
ランコトヲ掌シテ之ニ及ハヽ我輩ハ一喝大声
シテ廢藩ノ大號令ハ唯リ旧時封建ノ宿弊ヲ一
洗シタルノ大義事アルノミナラス又タ實ニハ
百年来本邦ニ在存セシ賤奴苦役ノ醜風ヲ掃除
シタル一大義舉ナリト称賛セサルヲ得サルナ
リ嗚呼大ヒナル哉廢藩ノ令嗚呼廢ヒ哉廢藩ノ
令然ルヲ世人動モスレハ憂ト見シ世リ今ハ戀
シキノ念ヲ一発シ尚ホ封建ノ論ヲ主張シ既ニ
羈軛ヲ脱スルノ自由民ヲ抑ヘ再タヒ之ヲ束縛
セント欲スルモノアリ果シテ是レ何ノ心ナル
ソヤ狂カ得タ暴カ我輩未タ称スル所ロヲ知ラ
サルナリ

羅馬律要巻之三畢

羅馬律要上快巻之三

小野梓 纂譯 附註

第三章 權理ノ主位即チ人類

第一節 人類ノ本位ヲ得ルヘキ品等

第二項 本位ヲ全スルノ榮譽

人類ノ正位ヲ全有スルノ榮譽ハ即チ民權ニシテ或ヒハ自由ノ褫奪ヲ以テ之ヲ失ヒ或ヒハ品行ノ醜惡ト職業ノ賤劣トヲ以テ之ヲ損減スルコトアリ

按スルニ正位ヲ全有スルノ榮譽ヲ刺甸語ニテ「エキゼスチメシオ」ト云ヒ羅馬人ハ之ヲ以テ人

類所有ノ一大要事ナリトシ苟モ之ヲ占有セハ
人々相と尊ンテ位地ノ上流ニ居ル者トセリ然
リ而シテ之ヲ失セスんニ由アリ曰ク某ノ刑罰
ニ處セラレ自由ノ權理ヲ褫奪セラルヽ者ハ民
權ヲ有スルコト能ハスト是レナリ又タ之ヲ損
減スルニ由アリ曰ク其ノ品行ノ醜悪ト其ノ職
業ノ賤劣トニ依テ人後ニ立ツ者ハ民權ノ幾分
ヲ損減スト是レナリ而シテ品行ノ醜悪ト職業
ノ賤劣トヲ定知スルニ則アリニツ曰ク政聽ノ
定則ニ據ル曰ク輿論ノ帰着ニ據ル

民權ノ減損ニ二類アリ曰ク「イムフヱミア、ヂユリ
ス」(附註ニ詳ナリ下ノ「イムフヱミア、プアク」モ亦
タ之ニ同シ)ニ因テ之ヲ減スル者曰ク「イムフヱミア、
プアリト」ニ因テ之ヲ減スル者
按スルニ羅馬ノ古代ハ民權ノ損減ヲ三等ニ分
テ第一「イムフヱミア」(臭名)ニ因テ之ヲ減スル者
ハ法制ノ禁止ヲ犯シテ某々ノ醜行ヲ縱ヒマヽ
ニシ或ヒハ之ヲ犯シテ某々ノ賤業ヲ職ト為ス
モノニシテ臭名ノ甚シキヲ以テ之ヲ論セラレ
其ノ民權ノ多分ヲ損減セラル者ヲ云ヒ第二「タ

ルビケユード」羞恥ニ因テ之ヲ減スル者第三「ビスノーター」(小羞恥)ニ因テ之ヲ損スルモノハ俱ニ輿論ノ擴作ヲ顧リミス某々ノ醜行ヲ縱ヒマヽニシ或ヒハ某々ノ賤業ヲ職トスルモノニシテ羞恥ヲ知ラサル者ヲ以テ論セラシ其ノ民權ノ筴分ヲ減損セラルモノヲ云ヘリ然リト雖モ中世以還本文ノ制ニ改メ其ノ所謂ル「イムフエミア、ヂユリース」ハ古代ノ所謂ル「フエミア」ニシテ其ノ所謂ル「イムフエミアフアクト」ハ古代ノ所謂ル「タルビチユート」ト「ビス、ノーター」ヲ兼セテ云ヘルモノナリ

凡ソ「イムフエミア、フアクト」ノ臭名ヲ負フモノハ上流ノ位地ヲ占ムルノ德ナク官牧タルノ權ナリ又タ法庭審斷ノ間ニ当テ其ノ擧ル所ロノ證左ハ往々不實ナリト見做サレ多ク信ヲ置クコトナシ換スルニ「イムフエミアフアクト」ハ唯リ輿論ノ帰着ニ依テ之ヲ定知スルモノニシテ法制ノ雲テ之レト相ヒ干渉スルコトナケレハ其ノ勢カノ及フ所ロ自カラ小々ナリ

凡ソ「イムフエミア、ヂユリース」ノ臭名ヲ負フモノハ

上流ノ地位ヲ占ムルノ德義ニ官牧タルノ權ナキノミナラス又タ他人ノ代理者ト為リ司法衙門ニ出頭スルノ權理ナシ但シ其ノ出頭ヲ禁止スル所以ノ理ハ元ト斯ノ輩ノ醜汚ナルヲ以テ裁判官ノ面前ヲ憚ラシムル為メノミナレハ訴訟ノ相手人タル者ハ之ヲ時トシテ其ノ審問ノ廢止ヲ要求スルノ權理アルコトナシ

按スルニ羅馬ノ古代ハ「イムフヱニア」(臭名前ニ詳カナリ)ノ汚名アルモノニ金錢ヲ貸与スルヲ許サスモシ苟モ之ヲ犯シ之レニ貸スニ之ヲ以テスルアラハ其ノ返辨ノ遲滯ニ際シ之レカ裁判ヲ法司ニ請フヒ法官ハ敢テ之ヲ受理セサルヲ以テ其ノ制トセリ然リ而シテ其ノ之ヲ本文ノ制ニ改正シタルハ實ニ帝「ヂヨスチニエン」登祚ノ後ニ在ル者ナリ再タヒ按スルニ本文但シ次下ノ十數句ヲ玩味セハ羅馬裁判官ノ其ノ權威ヲ張リシ有樣ノ一斑ヲ伺フニ足ルヘシ

且ツ苟モ「イムフヱニア」ノ臭名ヲ受クルモノハ其ノ適分ノ贖金ヲ官ニ納シ皇帝(或ヒハ總裁官或ヒハ元老官)ノ准允ヲ以テ之レカ停止ヲ公ニスルニ

非ラサレハ死ニ至リテ之ヲ脱スルコト能ハス

第三項　法教ノ如何

基督教ノ羅瑪ニ侵入シテ以来羅瑪人ハ信教ノ如何ヲ問ヒ以テ人民ノ權理ヲ軒輊スルヲ必要ナリトシ之レカ制度ヲ設ケ首メニハ　抔偶諸教ヲ横シ中コロニハ基督教ヲ作ケ終リニハ諸他ノ異教ヲ卑シミ唯リ基督真教ヲ尊ヒ苟クモ斯ノ真教ニ帰依スルモノニ非ラサレハ唯リ遺物ヲ受クルノ權ニ就産ヲ相續スルノ權ナキノミナラス又タ時トシテハ諸種ノ物類ヲ所有スルコトヲ許サヽルナリ

物スルニ其ノ大變革ノ以前ハ泰西各土大抵皆ナ羅瑪ノ如ク信教ノ如何ヲ問ヒ以テ人民ノ權理ヲ軒輊セルコトアリ今ヽ試ミニ其ノ一二ヲ擧ケンニ佛蘭西ニ於テハ耶蘇紀元一千七百八十九年第十二月第二十四日所定ノ国法ヲ公ニスル以前ハ天主教ノ非信者ニ与フルニ佛蘭西国民タルノ全權ヲ以テセス又タ一千七百九十一年第十一月二十七日所定ノ国法ヲ公ニスル以前ハ猶太宗ノ信者ヲシテ佛蘭人民ノ戸籍ニ

入ルコトヲ許サス又タ日耳曼ニ於テハ一千八百十五年ノ同盟ニ於テ所定スルモノ條款ヲ以テ始メテ基督教三大別流ノ一ヲ信依スルモノハ國事ノ權利ニ民事ノ權ヲ全有スルヲ得ルトヲフニ至レルモノナレハ其ノ以前ハ信奉ノ宗旨ニ依リ人民ノ權理ニ軽重アリシコトハ自カラ明ニ白ニナリ(按スルニ近時日耳曼帝國ノ宰相ビスマーク候ハ銃意シテ羅瑪天主教ヲ擯斥シ種々ノ計畫ヲ為スト雖モ未タ該教信者ニ就テ其ノ國民國事ノ全權ヲ殺減スルノ方策ヲ行フヲ見ス)又タ英國ノ如キモ亦タ猶太宗ノ人ヲシテ國事ノ全權ヲ有セシメサル等ノ事アリ皆ナ是レ奉信ノ宗旨ヲ以テ其ノ權理ヲ軽大ルモノナリ噫

我輩ハ因ニ國教是置ノ弊害ヲ畧論シ読者閃々ノ眼眸ヲ一瀆セントス故スルナリ惟ルニ之ヲ論説スルハ政事学家ノ常ニ以テ一大要事ナリトス為スモノナシハ読者ハ必ス其ノ眼ヲ刷ヒテ愚論ニ注寓スルアランコトヲ我輩ハ希望ノ至リニ堪ヘサルナリ

抑モ其ノ信奉スル所ノ宗旨ヲ問ヒ人民ノ權理ヲ軽スル所以ノ源ハ各土大抵其ノ主治者ノ所好ニ應シ國教ヲ一定シ其ノ被治者ヲ強逼シ之ヲ常奉セシムルニ在リテ羅瑪ヲ始メ佛蘭西日耳曼大貌利顛ノ如キモ皆ナ然ラサルハナシ吁々異ナル哉信奉ノ宗旨ヲ問ヒ其ノ權理ヲ軽スル[illegible]トヤ又シ權理ハ政事ニ依ツテ生スル者ニシテ蓋シ政事ハ形以下ノ者ナリ故ニ政事ノ勢力ハ唯リ人民ノ身上ニ及フノミニシテ敢テ其ノ心上ニ浸入スル能ハサルモノナリ法教ハ即チ然ラサルナリ其ノ主トスル所ロ專ラニ心上ニ在ル者ニシテ心ハ蓋シ無形ノモノナレハ其ノ勢力ノ及フ所ロ絶ニ形以下ニ渉ラサルナリ又シ然リ法教ト政事ハ素ヨリ相ヒ扞スモノニアラス各々其ノ岐ヲ殊ニシ一ハ零點ノ上ニ位シ一ハ其ノ下ニアルモノナリ故ニ信奉ノ宗教ヲ問ヒ人民ノ權理ヲ軽スルハ最モ謂ハシナキ者ニシテ絶ニ之ヲ以テ之ヲ軽スヘカラサルモノナリ然リト雖モ世人動モスレハ土耳格等ノ有様ヲ

引證シ宗教ノ秀善ナルモノヲ撰擇シ成ク人民ヲシテ之ヲ奉信セシムルヲ以テ政治ノ要務ナリト痛言シ苟モ此ノ目的ヲ達セント欲セハ必ス国教ヲ定置シ其ノ信不ヲ以テ其ノ權理ヲ軒輊シ因テ以テ人民ヲ引誘シテ其ノ国教ナリト定置シ永ル宗旨ニ無二ノ信仰ヲ置カシムルヲ其ノ一大要題ナリトスル者アリ我輩不敏這般ノ論者ト相ヒ和シテ斯ノ說ヲ主張セント欲シタリト雖ヒ如何センヤ實理ノ我カ時ヲ掣クアリテ之レト其ノ論旨ヲ一致セシメス剩サヘ終ニ大声シテ若シ果シテ世上論者ノ言ノ如クンハ我輩ハ更ラニ一層ノ非難ヲ增加シ国教ヲ定置スルハ非政ノ大非ナルモノナルヲ確信シ得ルナリト言ハシムルニイタリ

我輩ハ今マ故サラニ一歩ヲ讓リ之ヲ政教必一ノ主張論者ニ附与シ試ニ教法ト政事トハ是非トモ相ヒ干渉ノスヘキモノナリト見做シ之ヲ論說センニ若シ国教ヲ定置シ人民ノ奉掌ヲ強逼世間ノ論者ハ大抵之ヲ以テ引誘ナリト云ヘ

ルに我輩ハ決シテ之ヲ信スル能ハサルナリ蓋シ其ノ不信者アルニ遇ハヽ忽チ其ノ權理ノ一部ヲ首殺シ勢ヒ之ヲ崇奉セサルヲ得サラシムル者ハ是レ取リモ直サス強逼シテ之ヲ奉崇セシムルモノニシテ之ヲ引誘シテ之ヲ信仰セシムルトハ其ノ間隔豈ニ霄壤ト異ナランヤ(セハ別ニ二箇ノ巨害アリテ之レニ從ヒ一ハ四幣ヲ無得ノ冗費ニ消靡シ一ハ人民ヲ迫ツテ其ノ不信ヲ公ニセシメ隨ツテ其ノ品行ヲ破壞セシムルナリ我輩ハ讀者ヲシテ鄙意ノ所在ヲ明知セシメンカ爲メ尚ホ下ノ數款ヲ供シ其ノ寓目ヲ請フハレト款スルナリ惟フニ讀者ハ之ヲ許允シ給フヤ否

讀者ハ必ス之ヲ寓目スルノ榮譽ヲ我輩ニ賜与スルナルヘシト我輩ハ深リ自信スルヲ以テ前款ノ不答物語アルニ關セス方サニ本款ヲ以テ直ニ國教ヲ定置セハ四幣ヲ無得ノ冗費ニ消靡スルノ義理アル所以ヲ論說シ去ラント款スルナリ却說既ニ某ノ寓旨ヲ以テ之ヲ四教ト定置シ成ク讀士ノ人民ヲシテ之ヲ崇奉セシメント

欲セハ勢ヒ一二ノ方術ヲ施シ之ヲ済スニ非ラサレハ能ク其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルモノナリ抑モ世間何ノ妙術奇方アリテ能ク四教定置人民信奉ノ目的ヲ達スルヲ得ル欤我輩竊ニ惟ンニ何等ノ国何等ノ時ヲ問ハス喰々引誘ト強迫ノ二者ノミアリテ之ヲ外ニスレハ又タ他ニ一道ノ下策タモアルヲ見サルナリ況ンヤ其ノ奇妙完全ナル者ニ至ツテハ絶々無々ト謂フモ敢テ之ヲ妄語トセサルナリ是レ我輩ノ切痛シテ国教ヲ定置セハ四幣ヲ無得ノ心費

一消磨スル者ナリト明言スル所以ノ原因ニシテ特ニ読者ノ注意ヲ要求スル所ロノ標點ナリ

英倫碩学ダルヒ一ベンタム嘗テ国憲考案大全ナル者ヲ著シ其ノ中ニ云ヘルコトアリ曰ク凡ソ政廳ノ費用ハ賞罰ノ二者ニ因テ生シ此レヲ出シハ彼レニ入リ必ス其ノ範圍ヲ出テサル者ナリト然リ而シテ賞譽ノ如キハ其ノ本性ヲ以テ之ヲ言ヘハ頗ル善良ナル者ナレハ之ヲ倣シ得来ル的ノ上級ニ属ムルハ素ヨリ尚然ス

ル所ロナカルヘシト雖モ若シ政廳ニシテ其ノ
施与ヲ利用スルヲ知ラサシハ其ノ害點四討ヲ遁
用スト同一ニシテ其ノ弊肇ケテ數フヘカラサ
ルモノナリ蓋シ賞嘉ノ物類ハ偶然天ヨリ之ヲ
降シテ之ヲ政廳ニ賜與スル者ニ非ラス又タ突
然地ヨリ之ヲ出シテ之ヲ政廳ニ交付シタルモ
ノニモ非ラサルナリ蓋シ實ニ課稅等ノ方法ヲ
以テ人民ヲ罰點(我輩ノ茲ニ使用スル所ロノ主
ヲ我ハ尋常所用ノ意義ト少シク殊別シ人々ノ義
務ヲ始メ總ヘテ直接ニ該人自己ノ所得ヲ為サ
シムルモノヲ含蓄シテ云フナリ)スルニ因テ之ヲ
生スルモノナシハ其ノ施与ノ利用ヲ失シ少シ
ク過度ナルアラハ一歩ノ過度ハ一歩ノ四討點ヲ
增シ過度愈々多クシテ罰點愈々大ニ其ノ弊ヤ
終ニ唯々人民ヲシテ賞ニ慣レシムルノ害アル
ニ止マラス又タ或ヒハ官民相依ノ繩綱ヲ弛フ
シ隨ツテ國力ヲ減殺スルノ域ニ至ルモノナリ
故ニ賞嘉ヲ做シ得ル的ノ低點ニ減スルハ良
政ノ一部ニシテ其ノ効驗ハ則チ四討點ヲ做シ得
ル的ノ低點ニ減少スルト同一ノ權衡ヲ有ス

ルモノナリ

今マ上来畧説セシ論旨ヲ以テ直チニ国教ヲ定置シ人民ヲ引誘シテ之ヲ崇奉セシムルモノヲ論セシニ決然国幣ヲ無得ノ冗費ニ消靡スルモノナルヲ知ルナリ蓋シ引誘ノ目的ハ唯リ賞譽ノ一事ヲ以テ之ヲ達スルヲ得ルモノニシテ賞譽ハ實ニ国費ノ一部ヲ成スルモノナレハ苟モ之ヲ定置シテ非常ナル利益ヲ国民ノ社會上ニ生スルニ非ラサルヨリハ其ノ得ル所ハ其ノ費スル所ニヲ償フニ足ラサルヲ以テナリ請フ詳カニ之ヲ言ハン蓋シ惟ルニ法教ノ二字ヲ以テ之シニ冠ラシムルニ足ル者ナレハ縱ヒ其ノ宗義教法ヲ異ニスルモ其ノ教旨教意ニ至リテハ必ス同一ノ奥秘ヲ含ミ就中幽明ノ理ヲ說キ人心ヲ改良セントスルニ外ナラサルモノナリ故ニ其ノ大眼目タル教旨ノ特點ニ就テニヲ論スレハ佛教ナリ基督教ナリ回々ナリ波羅門ナリ何ナリ與ナリト雖モ左程ニ相ヒ軒輊スルノ實ナリ(特ニ宗旨乃チ「レリジヨン」ノ點ニ就テ之ヲ云フノミ其ノ学問ヲ論スルニ至リテハ釋迦大

雄氏ノ遺教独リ其ノ秀ヲ占メ基督諸教ニ至リテハ皆ナ其ノ下風ニ立チ往々無有学問ナルモノ多シ是ヲ以テ我輩ハ常ニ佛教ヲ以テ「プヒロソフイー」ノ部ニ入シ泰西諸科ノ窮理学ハ實ニ斯ノ印度ノ教学ニ原ツリモノナリト確言スルナリ其ノ詳カナルハ本編ニ切要ナラサルヲ以テ之ヲ殺畧ス到底相ヒ撰擇シテ彼此ヲ分別スルノ冗費ヲ為スニ足ラサル者ナリ丈シ然リ国教ノ定置ハ實際ニ一二ノ利益ヲ為サヽルモノナシハ人民ヲ引誘シテ之ヲ崇奉セシムルモ亦タ自カラ無用ノ費事タルナリ既ニ無用ノ費事タリ然ルヲ国幣ノ一部ヲ費用シ之ニ従事スルアラハ是シ有為ノ物ヲ以テ無得ノ用ニ供スルナリ能ク有為ノ物ヲ以テ之ヲ無得ノ用ニ供ス是シ則チ所得ノ遂ニ所失ヲ償フ能ハサル所以ナリ所得既ニ所失ヲ償フ能ハス是シ則チ国幣ヲ消費スト云フ所以ナリ吁々国幣ハ人民ノ膏血ヲ集メテ社會保安ノ政ヲ行ルモノナリ然ルヲ今ヤ之ヲ無得ノ用ニ供給シ之ヲ無暗ニ消費スルアラハ之シカ人民タルモノ誰シカ樂

ンテ自己膏血ノ涸滴ヲ以テ之ヲ国幣ノ海水ニ
供給スルヲ好マンヤ是レ豈ニ官民相依ノ縄綱
ヲ弛フシテ隨フテ国力ヲ殺減スルモノニ非ラサ
ルヲ得ンヤ故ニ曰ク国教ヲ定置シ人民ヲ引誘
シテ之ヲ崇奉セシムルモ亦タ巨大ノ弊害アル
ナト嘘引誘ステ尚ホ且ツ此ノ如シ況ンヤ之
ヲ強逼シテ之ヲ崇奉セシムルニ至リテハ其ノ
弊害国幣ヲ消磨スルニ止マラサルナリ我輩ハ
正サニ下款ニ於テ専ラニ之ヲ論説スヘシ
以上説ク所ロノモノハ専ラニ経済ノ標懸ヨリ
シテ看論スルモノナレハ世ノ修行ヲ偏重スル
ノ論旨ヲシテ之ヲ聞カシメナハ或ヒハ之ヲ非
難シテ云フナルヘシ曰ク修行ノ人間交際ニ於
ル其ノ関係スル所ロ至大至重素ヨリ他事ノ比
ニ非サルナリ故ニ少シク国家ノ経済ニ不利ナ
ルモ寧ロ国教ノ定置ヲ忽カセニスヘカラス宜
シク厳ニ国法ヲ立テ之ヲ以テ人民ヲ強逼シ悉
皆定置ノ国教ヲ信奉セシムヘシト吁々夫ノ偏
癖ノ眼孔ヲ以テ一方ヲ偏視スレハ這般ノ妄想
論ヲ吐クハ素ヨリ其ノ所ロニシテ我輩ハ深ク

之ヲ怪シマサルナリ然リト雖モ其ノ言フ所ハ
ニ一任シテ曾テ之ヲ排撃セサシハ其ノ響影ノ
及フ所ハオヽ知ルヘカラサルナリ故ニ我輩ハ
直進シテ此ノ輩ト相ヒ論辯スルモノアラント
決意シタリサリナガラ專ラニ経済ノ論旨ヲ以
テ這ノ輩ト相ヒ論辯スシハ彼我論旨ノ相ヒ戻
ルヲ以テ到底和國ノ標點ニ帰着スルノ見込ミ
アルコト無シ是ヲ以テ我輩ハ敢テ経済ノ論旨
ヲ擴充シテ之シカ辯論ヲ造ラス唯々方サニ國
教定置ノ第二巨害ナル人民ヲ迫フテ公ニ不信
ヲ行ハシメ随フテ其ノ品行破壞セシムル所以ノ
義理ヲ掲ケ出シ論者ノ爲メニ之ヲ一辯スヘシ
惟フニ國教ノ定置ニシテ決然人民ヲ不信ノ域
ニ陷ルモノ明證アルヲ知ラシメナハ論者備兒
ノ朦夢ハ一朝ニシテ醒了スヘシ
夫レ愛恋敬信ハ修行ノ四大要點ナリ而シテ特
ニ政事上ニ就テ之ヲ論スレハ四者ノ中チ最後
ノ信ヲ以テ其ノ最トスルモノトセリ蓋シ人民ニ
シテ信ナカラシメハ彼此交通ノ際詐偽百出ナ
ルヲ以テ人々相ヒ安ンセス訴訟武ヲ接シ種々

無量ノ混雑ヲ政務上ニ生スルコトアレハナリ
故ニ人民ヲシテ信アラシムルハ政務ノ一端ニ
属シ論者ノ国教ヲ定置シ人民ヲシテ感リ之ヲ
奉崇セシメントスルモ亦タ必ス之ヲ藉ヲ事
ラニ交通有信ノ行ヲ維持セントスル者ナル
ヘシ上来ノ想像ハ縱トヒ其ノ正鵠ニ中ラサル
モ之ヲ去ルコト甚タ遠カラサルヲ信スルニ足
ル者アレハ論者モ亦タ人民ノ有信ヲ重シスル
モノナリト我輩ハ確信スルヲ得ルナリ
論者ニシテ既ニ人民ノ有信ヲ重シスレハ我輩
ハ切リニ賀ス論者ヲシテ国教定置ノ第二非黙
ヲ知ラシムルニ便ナルヲ如何トナレハ国教ノ
定置ハ人民ヲ迫フテ不信ヲ公ニセシムルモノ
ナレハナリ斯ノ説キ去ラハ論者ハ必ス我輩ヲ
目シテ好奇ノ徒ト為スナルヘシト雖モ其ノ實
実シテ然ラス蓋シ人間ノ實理アリテ之ヲ措黙シ
以テ我輩ノ注意敏動スレハナリ論者諸ノ下文
ノ條款ヲ樹テ之ヲ分解セヨ
抑モ国教ヲ定置シ人民ヲ強迫シテ之ヲ崇奉セ
シムルヲ要スルハ果シテ何ノ時ニ始マル欲蓋

シ惟ルニ若シ該國ニシテ唯々一箇ノ宗教ノミ
行ハレ他宗ノ相ヒ競フナケレハ該土ノ人民ハ
感リ之ヲ信依スルカ故ニ別ニ法制ヲ以テ其ノ
崇奉ヲ強逼スルヲ要セサルナリ故ニ國教ヲ定
置シ國法ヲ以テ人民ノ崇奉ヲ強逼スル者ハ實
ニ此箇以上ノ宗教アリテ國内ニ共ヒ行ハルヽ
ノ時ニ始マルモノナルヲ知ルナリ
夫レ然リ故ニ國教ヲ定置シ國法ヲ以テ之ヲ保
護スルハ取リモ直サス人民ヲ強逼シテ他教ノ
信仰ヲ弛メ以テ此ノ國教ヲ崇奉セシメント欲
スルモノナリ能リ強逼シテ他教ノ信仰ヲ弛メ
之ヲ斯ノ國教ニ移サレメント欲ス是レ人民ヲ
迫ツテ不信ヲ世ニ公ニセシムル者ニ非ラスヤ
蓋シ信仰ハ之レヲ確信シテ之レニ帰仰スルノ
称ニシテ苟モ萬法唯心(佛教)ヲ信セハ終ニ天帝
造化(基督教)ヲ信スルコト能ハス又タ苟モ天主
造化ヲ信セハ亦タ輒リ萬法惟心ノ宗意ニ仰ヒ
易カラサルカ如キハ素ヨリ其ノ良德ニシテ其
ノ常ナルモノナリ故ニ信仰ヲ自由ナラシメ各
自其ノ好ニ任セ佛者ハ惟心基督家ハ天造ト

敢テ相ト姑クルナキヲ政務ノ一大要點トセリ
然ルヲ今マ茲ニ一ノ主治者アリテ自カラ基督
教ヲ好ムトテ之ヲ崇メテ其ノ國教ナ
リトシ苟モ之ヲ崇奉セザルモノアラハ某々ノ
罰(一二ノ權理ヲ奪フ等ヲ云フ)ヲ課トスト云
ヘハ佛教ノ信者ハ必ス國法ノ勢力ニ迫マラシ
又本懷ナカラモ勢ヒ坐禪ヲ廢シテ洗禮ヲ行ハ
サルヲ得サルナリ然リ而シテ佛教信者ノ少ラ
ノ坐禪ヲ廢シテ洗禮ヲ行フモノハ實ニ國法ニ
迫マラシ陽ハニ之ニ從事スルモノナシハ其ノ

奉

萬法惟心自淨其意ノ大旨ヲ事ンスルノ心ハ一時
タモ減少セス又タ或ハ曩昔ニ陪シテ愈ヒ切ナ
ル故ニ外行ハ其ノ基督ナリト雖ヒ内心ハ終ニ
佛者ナルノ名ヲ遁ルヘカラサルナリ噫其ノ心
ニ在スシテ之ヲ其ノ外ニ行フ是シ自カラ欺キ
若シテ人ヲ欺クモノナリ人ヲ欺キ又タ自カラ
欺クハ是シ不信ノ魁ナルモノナリ然リト雖ヒ
佛教信者ノ斯ノ不信ヲ行フハ自カラ好ンテ之
ヲ爲スモノニ非ラス實ニ國法ノ勢力ニ迫マラ
シ不本懷ナカラモ已ヲ得ス斯ノ不品行ニ陷

ルモノナリ夫レ然リ若シ該國ニシテ國教定置ノ制ナカラシメハ彼ノ信者ハ公然能ク他氏ノ遺教ヲ信奉シ内ハ信仰ノ本懷ヲ達シ外ハ不信ノ醜行ニ陷ラサル唯々此ノ凡例ハ彼ノ凡例ナリ是ヲ以テ基督モ回々モ何モ何モ其ノ地ヲ更ユシハ皆ナ此ノ如キノミ故ニ曰ク國教ヲ定置スルノ第二巨害ハ人民ヲ阻ツテ不信ヲ公ニセシムルニ在リト夫レ上来ノ如シ論者ハ尚ホ國教ノ定置ヲ主張スル欲惟フニ其ノ臆夢ハ漸ク方サニ一覺シ少シク心腦ニ感動スルモノアルヘシ是ニ於テカ我輩ハ再々ヒ大喝シテ國教ヲ定置スルハ非政ノ非ナルモノナリト切言スルナリ

行論ノ勢ヒ延ヒテ茲ニ及ヒ久シク読者ノ眼眸ヲ瀆ス寔ニ我輩ノ罪ナリ惟フニ読者ハ本文ノ眼孔ニ入ルヲ等候シテ止マサルヘシ故ニ我輩ハ筆ヲ茲ニ留シ轉シテ四維瑪ノ律要ヲ説キ去ルヘシ

第四項　男女ノ両性

民事上大抵男女ノ權理ヲ異ニセス但シ下ニ閑列ノ